

平成22年6月23日

東久留米市長 殿

東久留米市市民環境会議

水とみどり部会長 豊福正己



## 第2期市民環境会議水とみどり部会 調査等中間まとめ報告書

第1期東久留米市市民環境会議（平成19年5月21日～平成21年5月20）水とみどり部会及び第2期東久留米市市民環境会議（平成21年5月21日～平成23年5月20日）水とみどり部会が続けてきた調査等について、平成22年6月時点の中間まとめを以下のとおり報告いたします。

### 1 東久留米市・黒目川流域の水循環に関する報告

- 添付資料 ①「湧水と清流に恵まれた豊かな水環境を目指して ー東久留米市・黒目川流域の水循環に係わる概況ー」
- ②東久留米市・黒目川流域の水循環に係わる概略調査報告 ー基礎的データの収集と整理ー」

### 2 植物種調査に関する報告

- 添付資料 ①植物種調査報告書

### 3 生きもの調査に関する報告

- 添付資料 ①生き物調査報告書

以上

# 東久留米市・黒目川流域の水循環に関する報告書

- 1 「湧水と清流に恵まれた豊かな水環境を目指して ―東久留米市・黒目川流域の水循環に係わる概況―」
- 2 東久留米市・黒目川流域の水循環に係わる概略調査報告 ―基礎的データの収集と整理―」

※ 本調査は、主として東久留米市の行政データ、即ち昭和51年度以来刊行されている市の環境関係年次報告書（「東久留米市の公害」～「かんきょう東久留米」）によっています。一部補完するものとして東京都のデータや気象庁のデータを使っています。

# 湧水と清流に恵まれた豊かな水環境を目指して

## —東久留米市・黒目川流域の水循環に係る概況—

平成 22 年 6 月 東久留米市市民環境会議・水とみどり部会

東久留米市は黒目川と落合川という 2 本の主要な河川が流れ、湧水と清流に恵まれた良好な水環境が形成されている「まち」です(図-1)。平成 20 年 6 月には、落合川と南沢湧水群が「平成の名水百選」に選ばれました。近年その状況は比較的安定していますが、開発の進んでいなかった昭和の 30 年代に較べると大きく悪化していると言えます。この状況を改善して、我々が安心して且つ快適に暮らせ、地球の環境にも好ましい、豊かな水環境を取り戻すことが大変重要ですが、そのためには健全な水循環の回復が必要です。市民環境会議では昨年以來それに向けての第一歩として市域の黒目川流域の水循環の状況把握に努めてきました。この小冊子は中間的にその概要を取り纏めたものです。



図-1 東久留米市内の河川や湧水等

### 1. 黒目川流域の概略

黒目川は小平霊園内の樹林地の湧水を水源として、東久留米市の北部を東流して都県境付近で落合川を合わせ、埼玉県新座市を流下して朝霞市で新河岸川に合流する、延長 17.3km、流域面積 37.6km<sup>2</sup> の荒川水系の一級河川です。都県境より上流側は延長が 6.8km、落合川を含めた流域面積は 18.6km<sup>2</sup> です(図-2)。この上流域には東村山市、小平市、西東京市及び新座市の一部を含みますが、多くを東久留米市域 12.92



図-2 黒目川流域図(都「黒目川流域河川整備計画」より)

km<sup>2</sup> が占めます。この地域の黒目川及び落合川は標高 50~60m の武蔵野台地上を流れる川であり、流域は平坦な地形です。谷は台地を深いところで 20m 程掘り込んでローム層下の武蔵野礫層に達し

ているため、流域内には湧水も多く、水量も豊富とされています。

## 2. 市域の水循環のバックグラウンド

東久留米市は平成 21 年 1 月現在で人口約 11.5 万人、所帯数約 5.7 万所帯ですが、昭和 42 年以來の経年変化を図-3 に示します。人口は昭和 40 年代に大きく伸張して現在は頭打ちの状況にあります。所帯数は現在でも漸増の傾向にあります。この図には地目別土地利用[畑+山林]の百分率及び下水道整備率も示していますが、前者については昭和 42 年の 53%以降減少を続け近年では 16%を切って未だ減少傾向にあります。又、下水道については昭和 43 年に単独、昭和 56 年に流域下水道の供用が開始され、現在では整備率 100%を達成していますが、未接続が 1%弱残っている状況にあります。3. に示しますように、雨水が上手く地下に浸透し、地下水が涵養されることが期待されますが、これを人工的に促進させるのが雨水貯留浸透施設です。この普及のために市でも幾つかの施策を実施していますが、近隣先進都市に比して、その普及率は相当低い状況にあります。

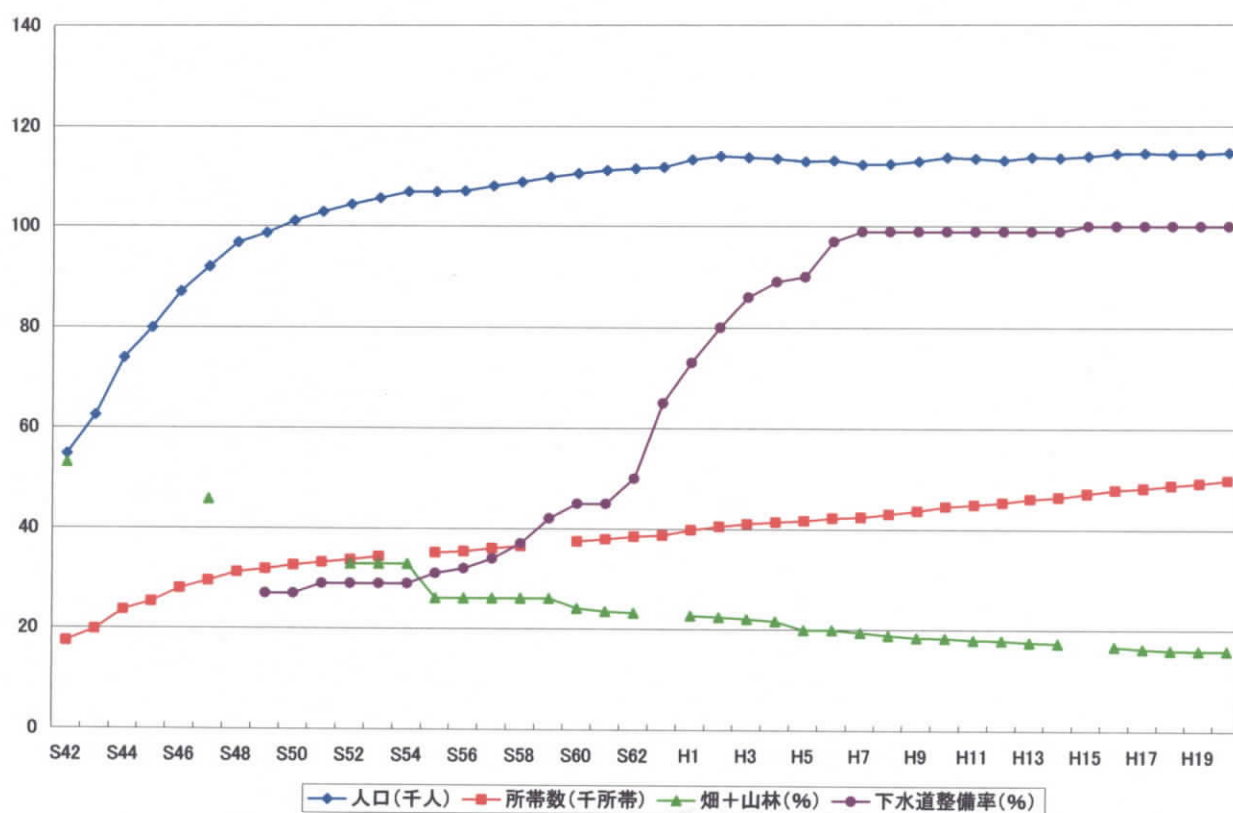


図-3 人口・所帯数、土地利用及び下水道整備率の経年変化

## 3. 水循環の概略

東久留米市には近年では年間 1,700mm 前後の雨が降っていると見られます。これらは蒸発する他、地表を流れて河川に流出したり、或いは地下に浸透します。それらの割合は明確ではありませんが、黒目川の全流域を対象とした 10 数年前の試算では、平成 2 年においてそれぞれが大略 1/3 ずつと想定されています(図-4)。地下に浸透した水、即ち地下水は武蔵野礫層と呼ばれる帯水層に滞留し、徐々に主として水平方向に移動します。この一部は湧水となって地表に現れますが、これらも含めて多くは黒目川・落合川の両河川に流出します。雨が降っていない平常時の河川の流量はこの流出量で支配されます。尚、降雨時の表面流出については、種々の雨水排水施設を通じてその全量が市域の両

河川に排水されています。

#### 4. 域内の水文(すいもん)状況

##### (1) 地下水位

地下水の水位は平成 16 年から市民ボランティアの手によって市内 25 ヶ所の井戸で測定されています。計測できた地下水位は最高で約 TP+62m、最低で約 TP+37m ですが、1 年の中での変動は大きいものでなく、最大 3m 程度で、年平均値で見た経年変化は僅かしかありません。上記は浅層の地下水位ですが、深層の地下水位は両河川の合流点付近で都によって測定されています。一時大きく低下していましたが、その後相当の回復を示しており、近年では TP+12~3m の値を示しています。

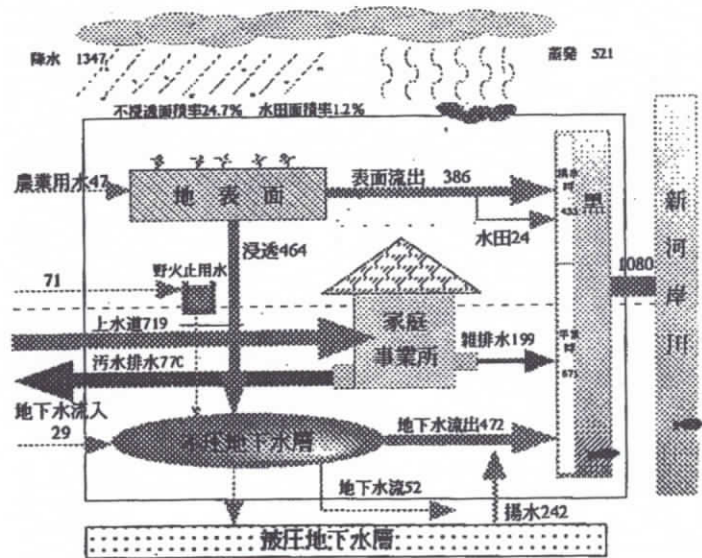


図-4 黒目川流域の水循環システム概念図(平成 2 年)  
(「身近な川を考えよう。」リバーフロント整備センターより)

##### (2) 湧水

湧水は地下水が地表に露出したものですが、当市では冒頭に記したように、南沢湧水群をはじめ多くの湧水地点があります。市の「湧水台帳」(平成 14 年 11 月)には市全域で 27 個所(一定の群を 1 個所として計上)が記載されています(図-1)。市民環境会議では平成 19 年度末から湧水地調査を始めていますが、時期によって上記の中でも枯渇しているものがある他、多くの新たな湧水地点の確認もされています。それ以前からの場所を特定した湧水量の測定は、市では平成 14 年から両水系の 5~9 個所で、又、都では昭和 62 年から落合川水系の 2 個所で行われています。市の計測結果(年平均湧水量)を図-5 に示します。異常値は計測の問題と考えられ、近年大きな変化は無いことを示しています。但し、当会議での調査と傾向の異なる部分もある他、かつて不定期に計測された値と対比して、特に上流~水源付近で減少の傾向も見られます。開発の進んでいなかった時代との比較はできていませんが、全域で現状に比して豊かな湧水があったことが想像されます。

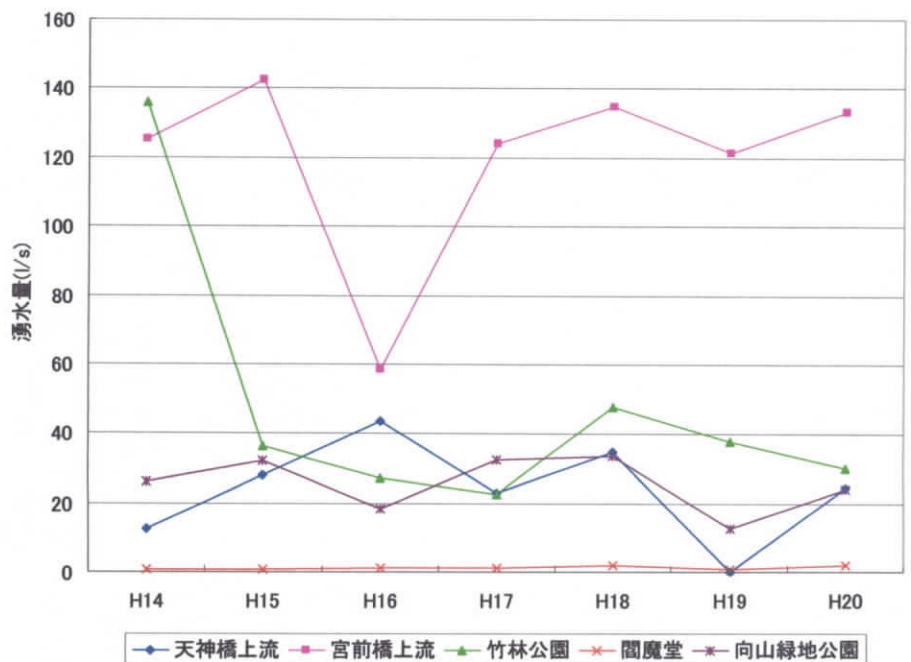


図-5 黒目川流域湧水量(年平均)

### (3) 河川流量

平常時の河川流量は湧水も含めて地下水の流出で保持されていますが、その測定は多くは河川水質の調査の一環として行われてきました。市では昭和 53 年以来、両河川の 8~15 個所で測定が実施されており、都では両河川の合流後の都県境とその直前の落合川の 2 個所で測定されています(昭和 47 年以来のよう)。両者のデータは概ね同様の結果を示していますが、図-6(次頁)はこの内、市の結果を示したものです。平成 9 年まで続いた減少傾向から、近年は特に落合川で若干の回復傾向にあるといえます。

図-7は雨量との相関関係を示したものです。一部のデータを除けば一応の相関(雨量が多ければ流量も多い)を読みとることが可能のようです。又、図-8は土地利用[畑+山林]との相関関係を示したものです。明確ではありませんが、[畑+山林]の大きいほうが流量も大である傾向が示されています。図-3に示したように、昭和 40 年代初めには、その値は 50%を上回っていました。その時代の流量は、別の要因もありますが、現在よりも 2 倍程度多かったとのデータも有ります。3. で触れた雨水貯留浸透施設は非浸透面積の増大をカバーするもので、その顕著な普及が期待されます。

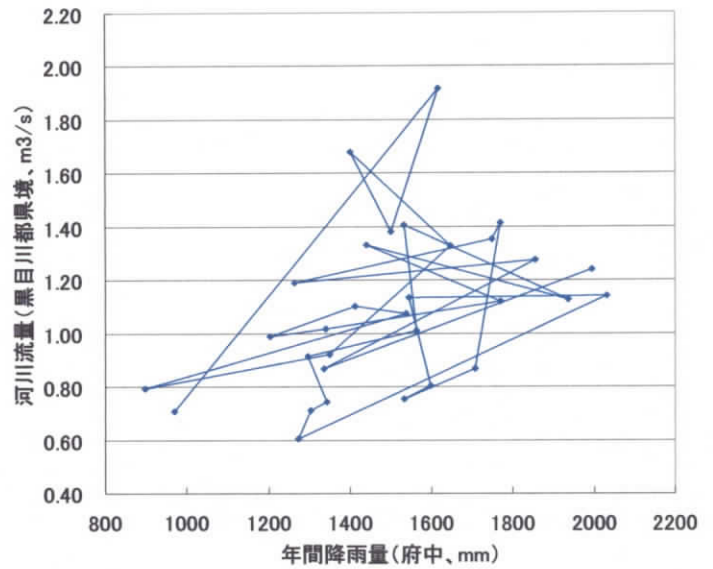
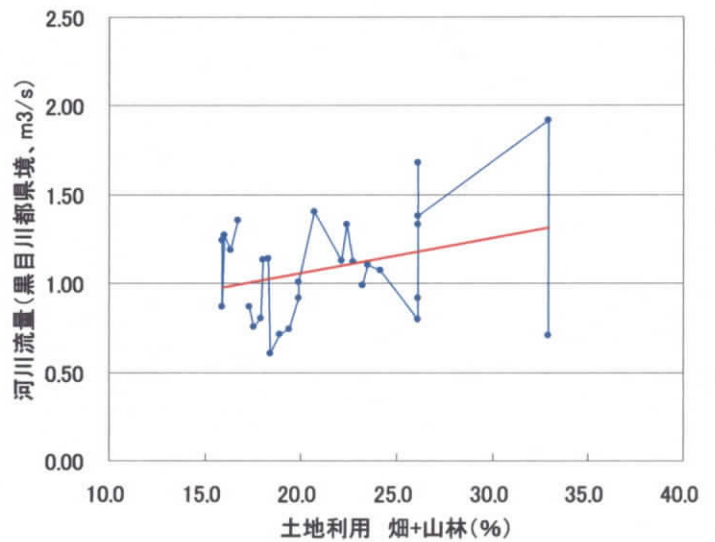
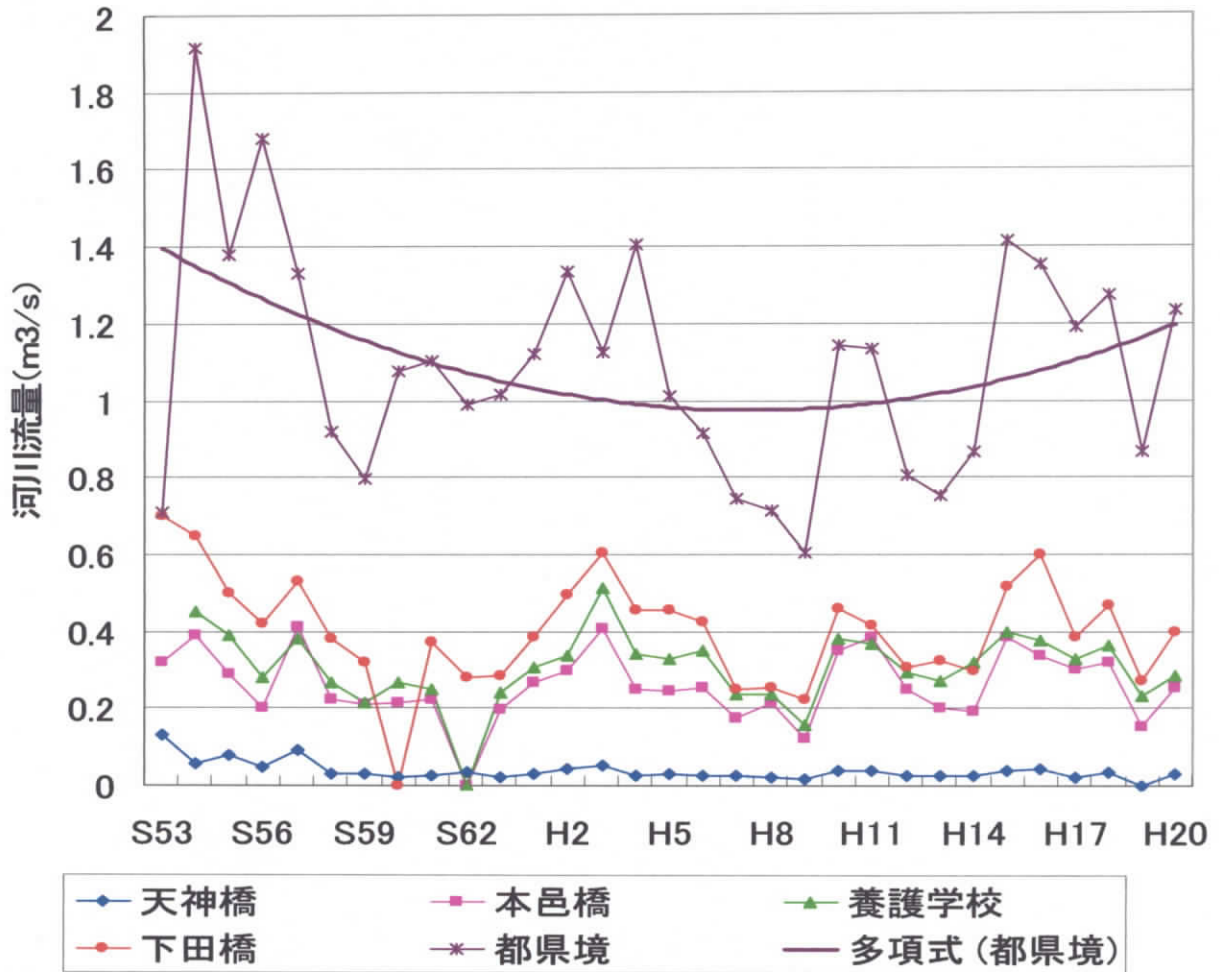


図-7 降雨量と河川流量

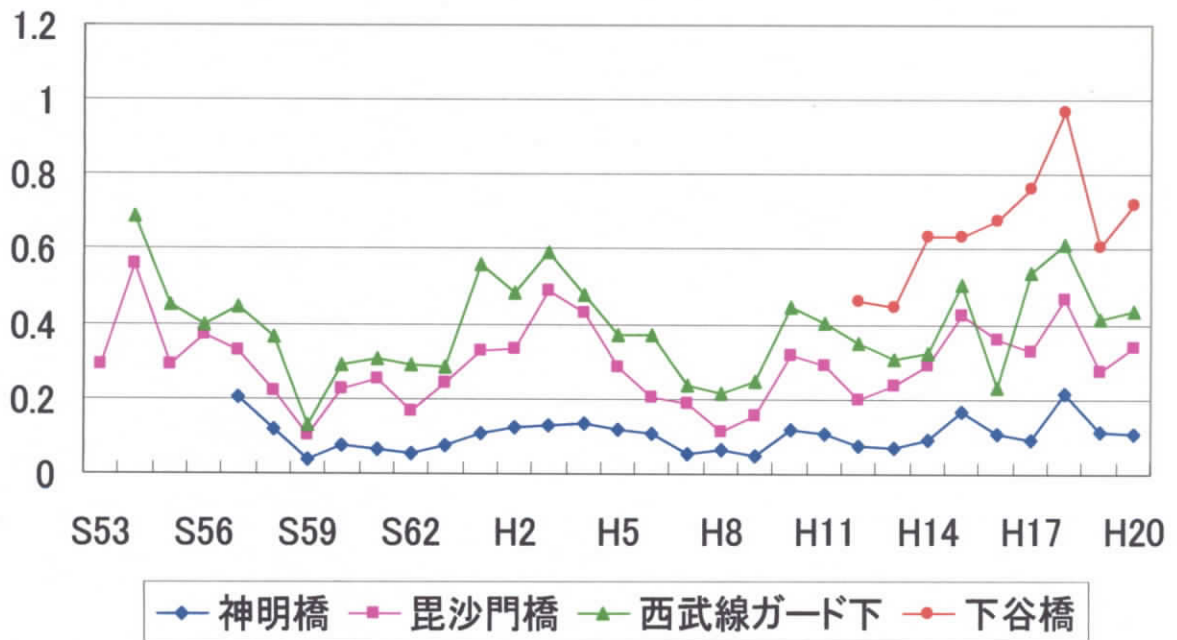


図

図-8 土地利用と河川流量



(a) 黒目川

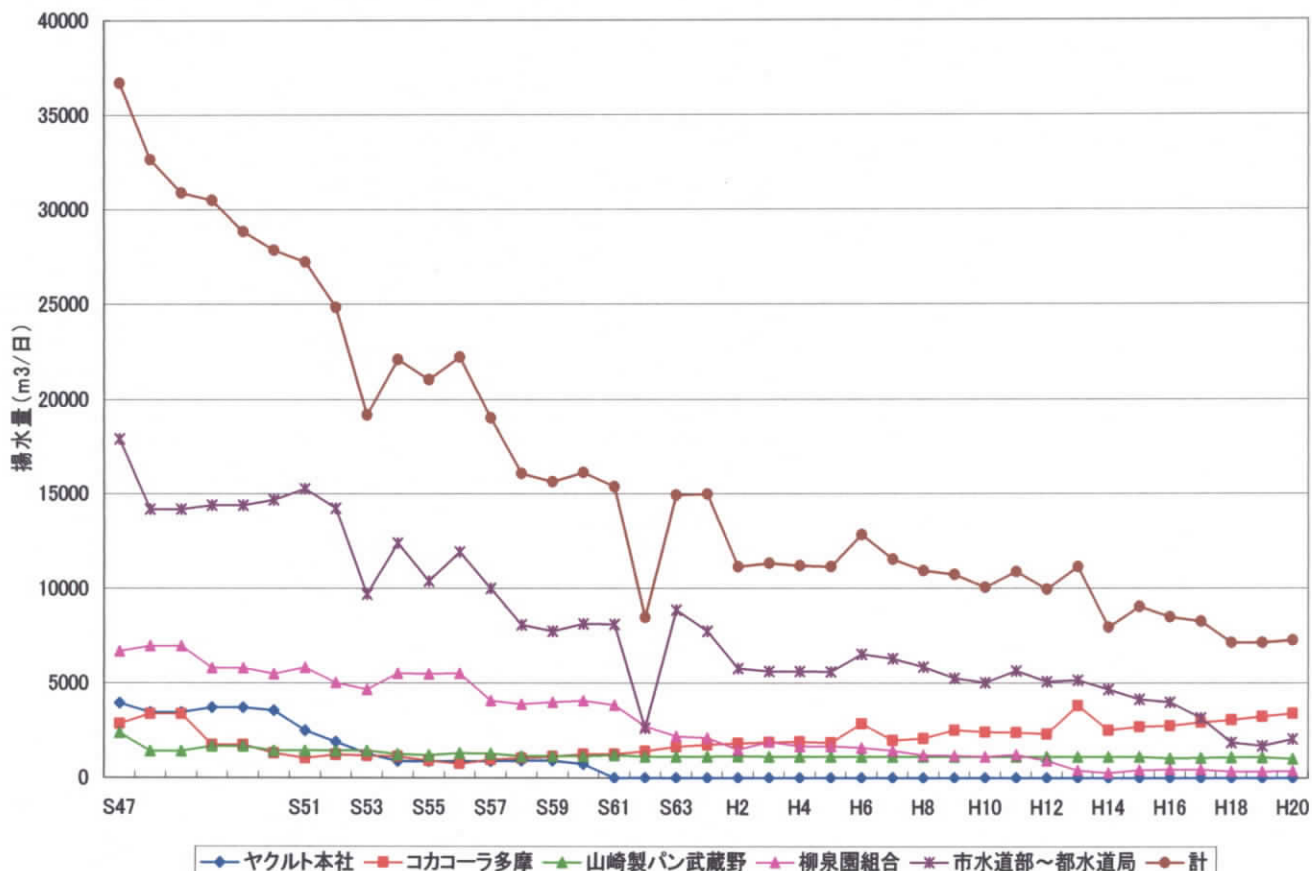


(b) 落合川

図-6 黒目川水系河川流量

### 5. 人工的な域内への水の供給とその行方

地表にもたらされる水は雨水以外に上水と地下水の揚水があります。揚水は昭和 47 年に市全域で約 37,000m<sup>3</sup>/日でしたが、その後急激に減少して、近年では 7,000m<sup>3</sup>/日程度となっています(図一9)。現在その主要なものは工場関係であり、使用後は下水や一部河川に放流されています。尚、その取水深度については会議では未把握の状況にあります。又、上水については基本的に市外部から導水されており、使用後の汚水は分流式の下水道によりその全量が流域の異なる柳瀬川畔の清瀬水再生センターに送られています。



図一9 地下水揚水量の経年変化(東久留米市内)



# 東久留米市・黒目川流域の水循環に係る概略調査報告

## －基礎的データの収集と整理－

### 目次

	頁	図表頁
1. 調査概要		
(1)「水循環」とは-----1	1	7
(2) 今回の調査について-----1	1	8
2. 市・流域の水循環に係る環境		
(1)地形・地質-----2	2	9
(2)人口・所帯数及び土地利用-----2	2	10
(3)雨水貯留浸透施設-----2	2	11
3. 域内への水の供給と行方		
(1)降雨-----3	3	12
(2)揚水-----3	3	13
(3)上水と下水-----4	4	(10)
4. 域内の水文状況		
(1)地下水位-----4	4	14
(2)湧水-----4	4	19
(3)河川流量-----5	5	21
5. おわりに-----5	5	(8)

平成 22 年 4 月 13 日

東久留米市市民環境会議・水とみどり部会

## 1. 調査概要

### (1)水循環とは

地上に降った雨は地表面を流れて川や湖をつくり、地下にしみ込んだ雨水は地下水になる。海に入った水、川や湖の水、植物に吸収された水は太陽のエネルギーにより蒸発し、雲になり再び雨になって地上に降り注ぐ。このように地球上の水は太陽のエネルギーにより地表、地中、海洋、大気の間を循環している。

都市では自然の水循環と人為的な水循環が結合して全体の水循環が形成されている。自然の水循環は上述のように雨となって地上に降り注ぎ土壌水や地下水として保存され地表に湧き出した後に川を下り海に注いで蒸発して再び雨になる。一方、人為的な水循環は人々の生活の快適性、利便性、安全性の向上や産業経済活動の拡大のため、飲料水や工業用水を確保し、氾濫する河川を治め、田畑を灌漑するために上下水道や水路などを整備することにより構築された水循環である。図-1(p.7)はこのような自然と人為が結合した水循環の模式図である。ここでは色々な施策により向上を図られた都市の水循環のイメージが示されている。

このような水循環が健全であることは、良好な水環境の形成に繋がり、我々の生活に多大の恩恵をもたらす。即ち、以下に示すような近年の都市化に伴う水環境の悪化を抑止・改善するために、健全な水循環の再生が必要となる。

- ・洪水流量とピーク流量の増大～都市型水害の発生
- ・地下水涵養量の減少～湧水の枯渇、平常時河川流量の減少
- ・河川、湖沼及び地下水の水質の悪化
- ・生態系への悪影響
- ・都市のヒートアイランド現象の発生
- ・身近な水辺空間の減少
- ・水文化の喪失

### (2)今回の調査について

#### ①調査の目的と内容

我が東久留米市は市域に黒目川と落合川という2つの水系を持ち、中でも「落合川と南沢湧水群」は平成の名水百選に選ばれるなど比較的良好な水環境を持っている。但し、昭和40年代に急激な都市化が進み、近年でも土地利用の都市化が進捗している状況にあり、湧水の枯渇や平常時の水量の減少が懸念されることから、水循環の健全化は当市にとって重要な課題となっている。その解決のためには、当市を含む黒目川流域の総合的な水循環の計画を策定し、それに基づく実行が必須と考えられるが、本調査は同計画が具体的に策定されるための準備の一環として黒目川流域の水循環に係る基礎的なデータの収集と整理を行うものである。

#### ②対象範囲

基本的に水循環を考える対象は流域単位であり、本来はそれと関係の無い行政区画で考えることは困難なことである。黒目川流域という場合、新河岸川に合流するまでの埼玉県域を含むもの(図-2(p.8)参照)であるが、ここでは東久留米市が主として関係する都県境までの上流域を対象としている。厳密に言えば、都県境から上流の黒目川流域は小平市、東村山市及び新座市(埼玉県)の一部を含むが、殆どの領域を東久留米市が占めていることから、取り敢えず主として市域とい

う行政区画で考えることを許容するものと考えている。

### ③調査方法

主として東久留米市の行政データ、即ち昭和 51 年度以来刊行されている市の環境関係年次報告書(「東久留米市の公害」～「かんきょう東久留米」)によることとした。一部、補完するものとして東京都のデータや気象庁のデータによった。又、市の関係で公開資料のみで把握できない部分については市の担当にインタビューを行った(下水道関係)。

### ④調査項目

- ・ 域内への水の供給と行方  
    降雨／揚水／上水と下水
- ・ 域内の水文状況  
    地下水位／湧水／河川流量
- ・ 市・流域の水循環に係る環境  
    地形・地質／人口・所帯数及び土地利用／雨水貯留浸透施設／下水道整備

## 2. 市・流域の水循環に係る環境

### (1)地形・地質

図-3(p.9)に東久留米市の概略地形図を示す(「かんきょう東久留米」より)。以下に同冊子の説明を引く。

「東久留米市は標高 70m から 40m の範囲を西から東になだらかに傾斜しており、武蔵野台地の中でも特異な地形を示しています。市の中心を流れる黒目川・落合川及びその他の小流は北東に向かって流れ、その間の前沢・南沢・門前を含む紡錘状の台地があります。地域としては武蔵野台地でもローム層の地域で、その厚さ 10m 以上の所が多く、また数条の流れにより侵食や低地によって地下水も複雑であり、市内には南沢をはじめとする多くの湧水があります。」

図-4(p.9)は黒目川・落合川の地質横断面図を示す(リーフレット「湧水のひみつを探る」より)。ローム層は雨水の浸透能力が大きいのが特徴であり、武蔵野礫層では地下水が豊富に活動しているとされている。

### (2)人口・所帯数及び土地利用

図-5(p.10)に東久留米市の人口・所帯数及び土地利用の経年変化を示す。市制施行の昭和 45 年の前後で人口・所帯数は急激に増加しており、対応して土地利用に占める畑及び山林の割合も急減している。人口は平成の初め頃から 11 万 3,4 千人と大きな変化はなくなっているが、所帯数は緩やかであるが引続き増大しており、その対応と見られるが、[畑+山林]の割合は減少を続け 15%台に低下している。尚、緑被率も低下の傾向は続き、平成 20 年度で 33.3%である。

### (3)雨水貯留浸透施設

東久留米市の雨水貯留浸透施設の普及施策は以下の 3 つの施策からなっている。即ち、

- ・ 公共施設への雨水浸透施設の設置
- ・ 既存住宅への雨水浸透施設設置補助
- ・ 宅地内雨水流出抑制施設の設置義務

これらの施策の根拠や実績を表-1(p.11)に示す。同表によれば、宅地について新規と既存を併せた雨水浸透施設の普及は小金井市(平成21年末で設置率53.2%)などに比して極めて低い数値となっている。但し、同表の施策とは別の、以下の2つの施策対応によって同施設を設置している宅地の実績は相当の数に上ると想定される。

a.一定規模以上の宅地の開発に係る都の規制

b.市における新築住宅における雨水浸透施設の設置の推進

後者は、既存住宅への補助の関係は環境政策課の事項であるが、新築について施設管理課・下水道担当の方で対応しているものである。即ち、根拠となる条例などのものは無いが、建築確認時に同施設の設置を「お願い」しており(「指導」とまでいかない)、実績として殆ど対応してもらっているとのことである。尚、開始時期についてはH17年前後と思われるが、実績データについては纏まったものは無いようである。

### 3. 域内への水の供給と行方

#### (1)降雨

##### ①降雨量

市域における降雨について市独自の観測も無いわけではないが(市消防本部データ)、観測機器のメンテナンス等の点で問題があるとのことから、気象庁データによることとした。図-6(p.12)は府中及び練馬の年間降雨量の経年変化である。ほぼ同一の変化を示しており、東久留米市についてもこれらと同様の降雨があったと看做して良いと考える。ここ暫くは1,600~1,700mmとなっており、昭和の年代の1,300~1,400mmに比して増大している様子が見られる。

図-7(p.12)は府中のデータによる月別降雨量の(32年間の)平均値、及びそのばらつきを示す。9月をピークとする多雨期、12,1,2月の少雨期が明瞭に見て取れる。[偏差/平均]で示されるばらつきは3月が最も小さいが、その後9月までは0.5前後を示し、少雨期はばらつきが相当増大している。

##### ②雨水排水について

系統として「流域」と「単独」の2通りがある。「流域」は20ha以上の集水面積を持ち、暗渠構造となっている。流域下水道黒目川雨水幹線及び同落合川雨水幹線があり、両幹線の集水対象は流域の水を拾うことから、小平市や東村山市の一部を含む。これらの排水は全て市域で処理され、黒目川や落合川に排出される。

尚、整備とは時間50mmの降雨強度に対応することをいい(未整備地区では道路側溝などへ流出している)、このような定義のもと、整備率は12%となっている。整備地域は滝山団地区域が主体である。

#### (2)揚水

市の環境関連年次報告書による黒目川流域の揚水量の経年変化を図-8(p.13)に示す。全体としては、記載が始まった昭和47年の37,000m<sup>3</sup>/日をピークとして年々減少し続けて、最近では7,000m<sup>3</sup>/日を少し超える程度となっている。当初は柳泉園組合を含む大小の工場と南沢の市~都の水道用揚水が同程度であったが、その後水道用揚水は減少の一途をたどり、同じく減少しているとは言え、工場関係がほぼ7割を占めるに到っている。現在、その主要な部分を占めるのはコ

カコーラ多摩工場で一時減少したものの近年増加の傾向にある。

上水用を除いて、揚水後種々の使用に供された水は、その後一部河川に放流されたり(コカコーラ多摩工場など)、下水に流されたりしている。一般には下水道料金は上水道使用量に対応して課金されているが、井戸揚水後の下水利用については、別途、揚水箇所について全て設置されている専用のメーターによって課金されている。(井戸揚水後の河川への放流量については、揚水量と下水使用量との差で把握可能とも考えられる。)

### (3)上水と下水(汚水)

#### ①上水

今回の調査では対象としなかった。

#### ②下水道整備(汚水)

昭和 39 年滝山団地の区画整理事業とともに分流方式・単独公共下水道として整備を始め、昭和 43 年供用開始された(それ以前は全く無し)。その後「荒川右岸流域下水道計画」に基づき、昭和 53 年より流域関連下水道としての整備を進め、昭和 56 年 11 月より使用を開始している。従って、方式は全て分流式である。

流域下水道は流域 9 市(→8 市)が対象である。終末処理場は柳瀬川畔の清瀬水再生センターである。主要幹線は黒目幹線で、市からの同流域幹線への流し込みの量は 1,325 万トン(平成 20 年度)と推計(面積比率による計算値)されている。下水道人口普及率は H15 年度で 100%に達しているが(図-5、p.10)、水洗化率(=接続率)は平成 20 年度でも 99%強であり、平成 22 年 1/1 現在で 430 戸が未接続となっている。

## 4. 域内の水文状況

### (1)地下水位

市では湧水保全対策の資料として、平成 16 年 11 月から毎月一度市内 25 ヶ所の井戸水位などの実態を市民ボランティアの協力により実施している。調査対象井戸の位置を図-9(p.14)に示す。又その各井戸の所在地名、井戸底の標高などを表-2(a)(p.15)に示す。同表に示すように、井戸底は T.P.+36~60m の範囲にあり、測定値は同じく T.P.+36~61,62m(平成 19 年度、年平均値)の範囲にある。又枯渇によると思われる測定不能のケースも相当数に上っている。

表-3(p.16)は全ての観測井戸の、観測できなかった(欠測)回数、最高・最低水位及び年間平均を示す。欠測回数は 4 年間で特段の変化(特に増大の傾向)は無い。又、年間の水位変化は大きいものではない。代表的な井戸について月変化の様子を示したのが図-10(p.17)である。変動の大きいもので最高と最低の差は 3m を越すが、その他は 0.5~2.0m の範囲に収まっている。図-11(p.18)は経年変化を示す。大きな変動は見られない。人口も少なく、土地利用の面でも[畑+山林]の占める割合が多かった昭和 40 年代の水位が如何なるものであったか興味深い、現状で未把握である。

尚、表-2(b)(p.15)は東京都環境局の東久留米市内における計測の諸元を示す。同表に示すように水位は市測定数値と大幅に異なり近年で T.P.+12~13m を示す(最近でも漸増の傾向を示している)。これは井戸底~ストレーナーの深さが全く異なることによっていると考えられる。

### (2)湧水

黒目川流域で実施された湧水調査には幾つかの種類がある。これを表-4(p.19)に示す。この内、都の経年調査；Cの結果は入手しえていない(又、都の近年の調査も実施されているかもしれないが、見出しえていない)。両水系に亘る近年の継続的調査は市のA2であるが、この調査位置図を図-12(p.19)に示す。VI~IXの4個所は平成20年度から追加されたものである。平成14年度から測定されている5個所について、年平均値の経年変化を図-13(p.20)に示す。異常値は測定上の問題と考えられる。それらを除けばそれほど大きい変動は無いといえるが、中では黒目川天神橋上流地点の変動は大きい。平成19年は減少している個所が少なくないが、中でもこの地点では「0」となっている(因みにこの年は降雨量も前後に比して大きく減少している。)

尚、A1のデータと比較した時、神明橋、ひょうたん池及び閻魔堂などの地点では昭和53,56年の時点で多少とも湧水が認められたが、最近では殆ど認められないことが指摘される。

### (3)河川流量

黒目川水系の流量については東久留米市および東京都の調査結果があるが、基本的にはそれを主目的とした調査は少ない。おおかた水質調査の一環として実施されている。実施された調査の一覧を表-5(p.21)に示す。同表のうち、東久留米市によって実施された河川水質調査(A1)の調査位置を図-14(p.21)に示す(⑬~⑮は平成20年度のみ実施)。又、それらの調査の時期・個所の一覧を表-6(p.22)に示す。調査によって様々な位置や仕様によって行われていることが分かる。

表-7(p.23)はこれらの内、主要な位置や調査の結果について、年平均の経年変化として示したものである。但し、上述のように調査仕様は実施者や時代によって異なっていることに留意されたい(仕様の相違は備考欄に示す)。黒目川・都県境、落合川・神明橋及び下谷橋では市と都の両データを示すが、概ね同様の結果を示していると評価できる。以降、年平均値について傾向を見ることとするが、その前に年間の変動について示す。図-15(p.24)は平成10年から20年の間の、月毎の平均値の変化を示す。各年の月変化はばらつきが有るが、11年間の平均値で見ると綺麗に豊水期、渇水期の変化が見られることとなっている。

図-16(p.25)は年平均値の経年変化を示す。一部、下流の数値が上流を下回るという異常値もあるが概ねしかるべき挙動を表しているものと見たい。年によって相当の変化を示しているといえよう。昭和53年以来、顕著な一定の傾向を示しているとは見られないが、黒目川と落合川が合流した後の都県境のデータでは、大きく言えば、相当程度の減少傾向の後、若干の回復の兆しを表していると見られる(多項式近似による曲線参照)。

図-17(p.26)は土地利用と河川流量の関係を示す。相関が相当あると見たいが、全体で相関係数 $r$ は0.305と大きくはない。近年の一部のデータを除いても $r=0.463$ である。但し、全体についても直線近似をすれば一応右上がりの傾向を示す。

図-18(p.27)は年間降雨量との相関を示す。同じく相関係数は全体で0.435と大きくなく、初期の「期待」に反するデータを除いても $r=0.531$ に止まっている。(降雨量は歴年、河川流量は年度の値という相違はある。)

## 5. おわりに

以上、水循環に係る基礎的なデータについて経年変化を主に整理してきた。以下にそれらの総括と今後に向けての課題について記述する。

#### ①経年変化について

主要な水文データである地下水位、湧水及び河川流量の3つの内、地下水位と湧水についてはしかるべきデータは近年のものしかなく、且つその間において大きな変動は無いことが明らかとなった。一方、河川流量についてはS53以来、31年間のデータの蓄積があり、その傾向を見ることができた。それによれば、永らく低落傾向にあった水量が、喜ぶべきことに近年回復の傾向を示している。

但し、急激な都市化が進行した昭和40年代以前の姿との対比はできなかった。その時代において想定される豊かな水環境に比して現状を如何に評価するか、現状は相当プアーなものと同様に評価されるのではないかと危惧される。

本調査を進めていく中で最も残念であったのは、期待するデータそのものの不足であった。その欠落は別途の方法で補う必要があるが、今後に向けて望まれるのは、現在実施している調査・観測の継続である。近年始められた湧水や地下水位の調査観測が今後も着実に継続されることが期待される。

#### ②絶対的評価について

今回は上述のように経年変化を主体にした整理を行った。例えば、計画高水時ではなく平常時の比流量(流域面積辺りの流量)等を算定し、他と対比するなどのことは行っていない。黒目川流域の特性評価としてこのような絶対評価が必要であろう。

#### ③水収支について

水収支とは「一定の地域において一定の期間に流入する水の量と流出する水の量の差引勘定」とされるが(大辞林)、水循環における水の流れの系統に従って水の移動量を示した「水収支図」として表されることが多い。本来、流域単位に算定されるべきものであり、近傍では柳瀬川流域の例があるが、都下では八王子市や国立市という市単位での算定の事例がある。今回の調査では東久留米市域に限定したデータが主体で、その意味では黒目川流域の水収支の算定は厳密に言えば困難であるが、市域に限っても全てが網羅されていない。今後、必要なデータの把握に努める必要がある。

#### ④広域的な視野について

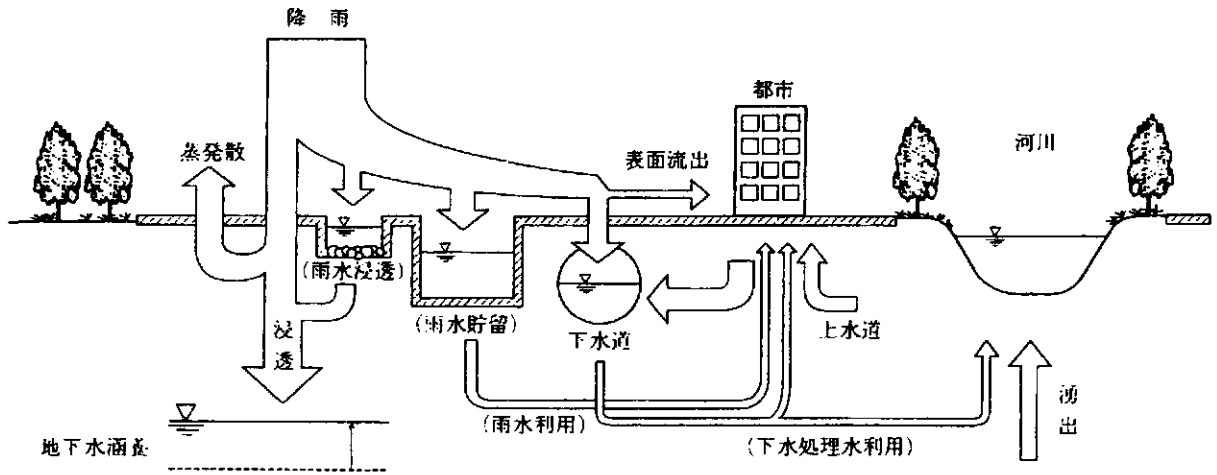
図-2(p.8)に示したように、東久留米市は、黒目川が新河岸川に合流するまでの全流域を見れば、その上流部の多くを占めるに過ぎない。市域における黒目川流域の水環境の改善・向上は、その下流部、ひいては新河岸川流域の改善に寄与することは勿論であるが、併せて、下流部を含めた流域全体の水環境の改善や水循環の健全化が必要であることに関心を持つ必要がある。

最後に、当市において「湧水・清流保全都市」の宣言が実現し、水循環に係る総合的な計画の策定に向けて前進すること、ひいては実効的な水環境の改善が図られることを切に期待する。

追記) 本調査において、引用して使用した諸データについて、その計測方法の妥当性やデータの詳細な吟味を踏まえたものでないことをお断りしておく(疑わしいものについてもそのまま使用している)。調査方法など、しかるべき記録が残されていることも期待される。

又、良好な水環境の要素としては勿論水質が含まれる。健全な水循環はそれを担保するものであるが、本調査では全くこの関係について触れていない。この面では別途の調査整理が必要である。

図-1 水循環模式図



(建設省「都市の水循環再生構想策定マニュアル」H10より)



图-2 黑目川流域图

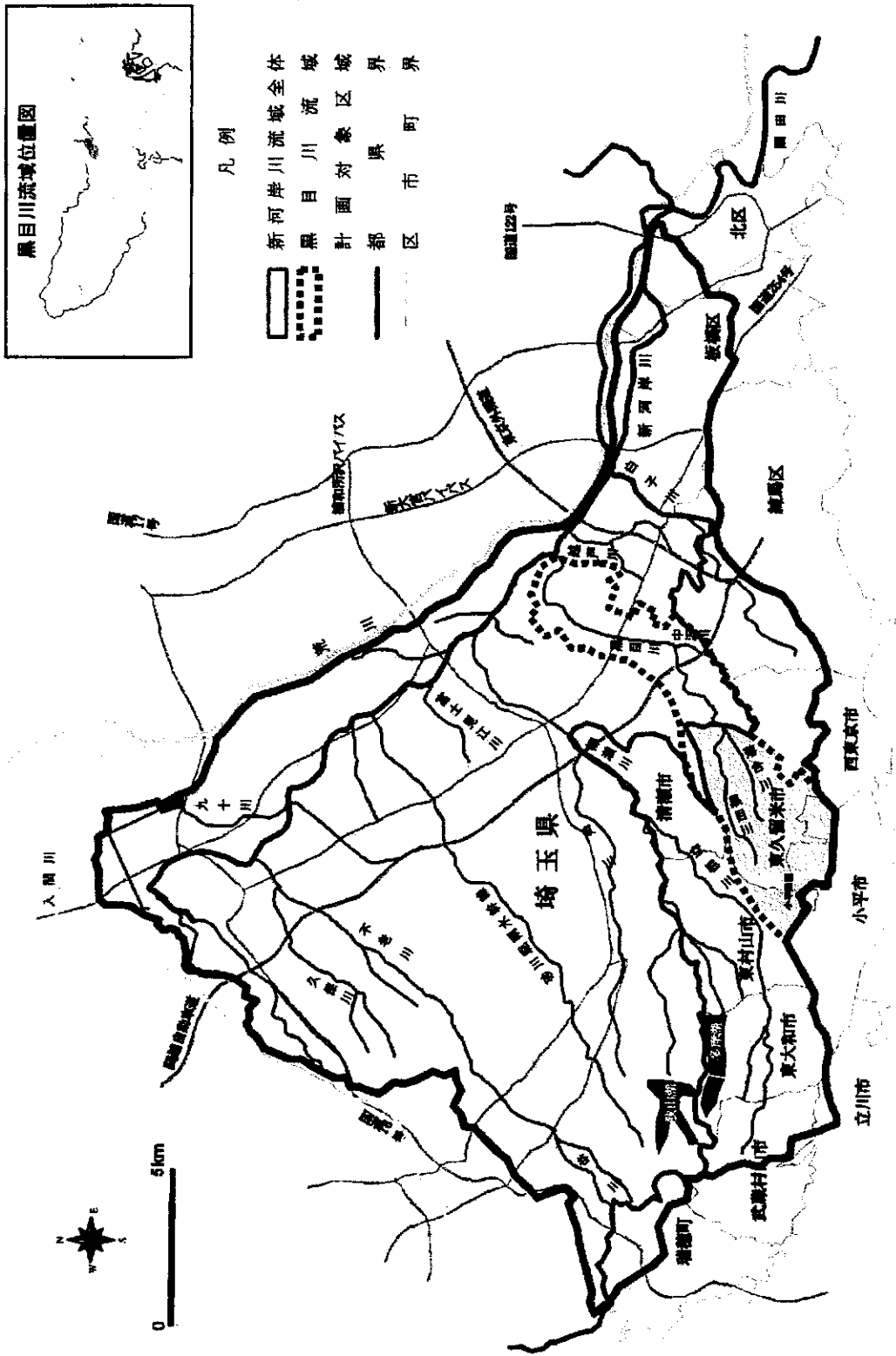


図-3 東久留米市地形概略図

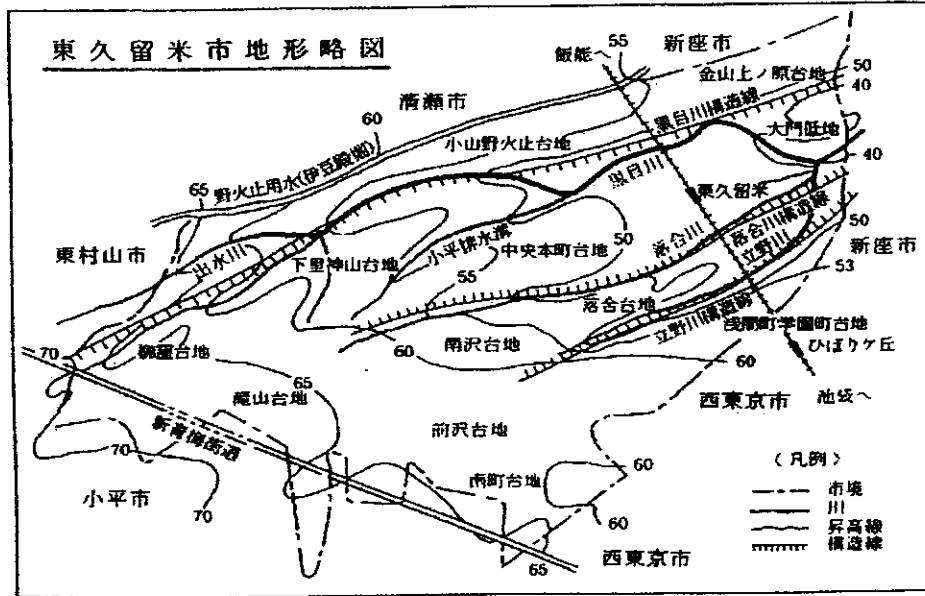
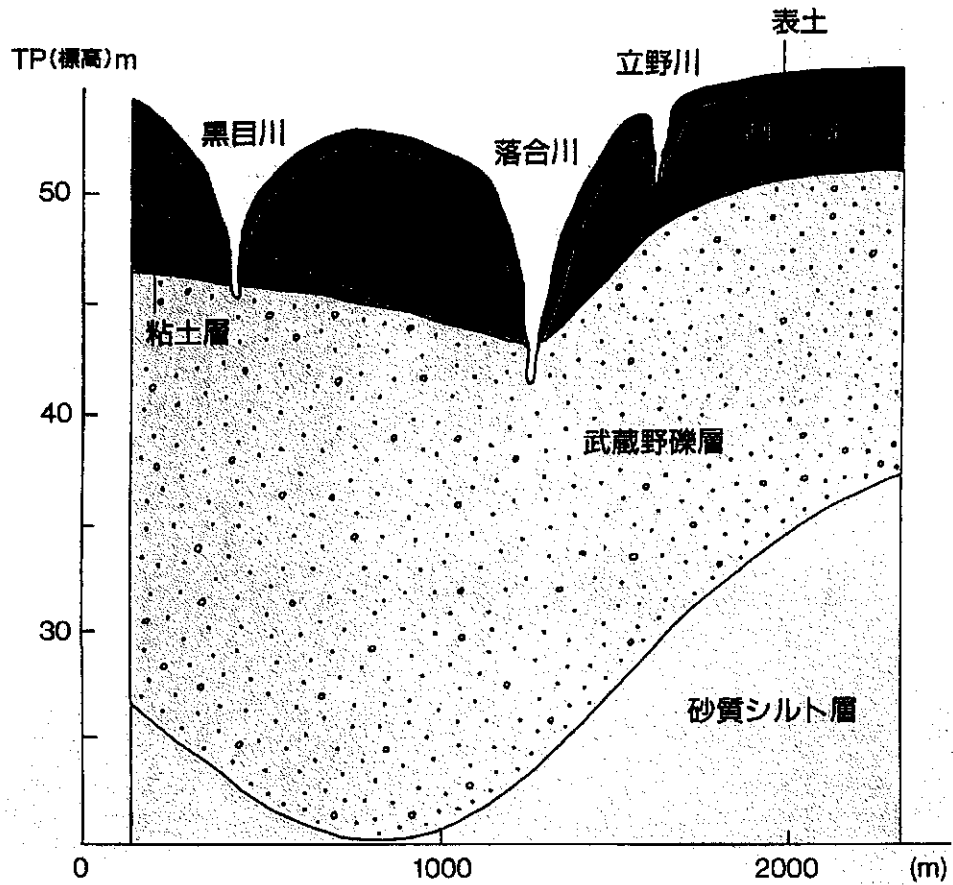


図-4 黒目川・落合川の地質横断面図



図一5 人口・所帯数、土地利用及び下水道整備率の経年変化

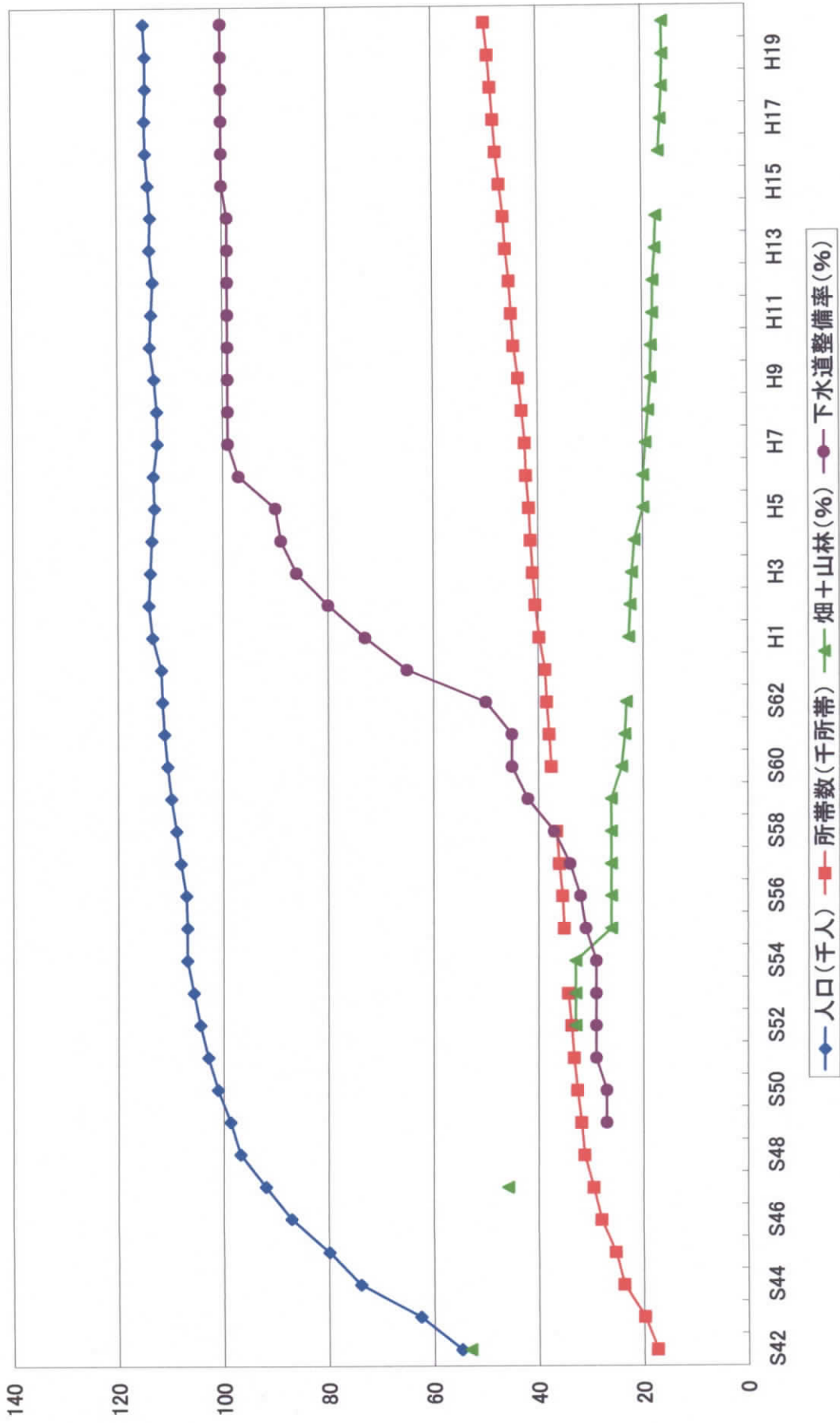


表-1 黒目川流域(東久留米市内)雨水貯留浸透施設設置状況

	公共施設への 雨水浸透施設の 設置	既存住宅への 雨水浸透施設 設置補助		宅地内雨水流出抑制施設			
	(不詳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東久留米市の湧水等の保護と回復に関する条例(H17.6) 第12条 雨水浸透</li> <li>・同施行規則(H18.5) 第5条 雨水浸透施設への補助</li> <li>・東久留米市雨水浸透施設補助金交付要綱(毎年度設定) 第4 補助金額 別に定める標準工事費単価 ×設置数以内</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・東久留米市宅地開発等に関する条例(H17.9) 第27条 排水施設</li> </ul>			
根拠	箇所	件	基	区画数	トレンチ (m)	浸透枡 (箇所)	浸透井 (箇所)
H6		37	145				
H7		82	280				
H8	1	89	296				
H9	1	74	295				
H10	1	137	458				
H11	0	106	310				
H12	1	32	93				
H13	1	10	32				
H14	2	19	51				
H15	2	41	107				
H16	2	33	93				
H17	0	14	48				
H18	0	19	59	308	1,086	620	51
H19	0	11	37	148	593	296	36
H20	0	14	25	123	500	246	35
計	11	738	2,329	579	2,179	1,162	122
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全て学校、幼稚園</li> <li>・H17～休止中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1000m2未満。新・増築を除く。</li> <li>・H19;1基当たり35m2まで 工事費単価 23～26千円/基</li> <li>・全所帯数に対して1.48%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画法第29条に基づく開発行為でその規模が500m2以上のもの、等</li> </ul>			

図-6 降雨量経年変化

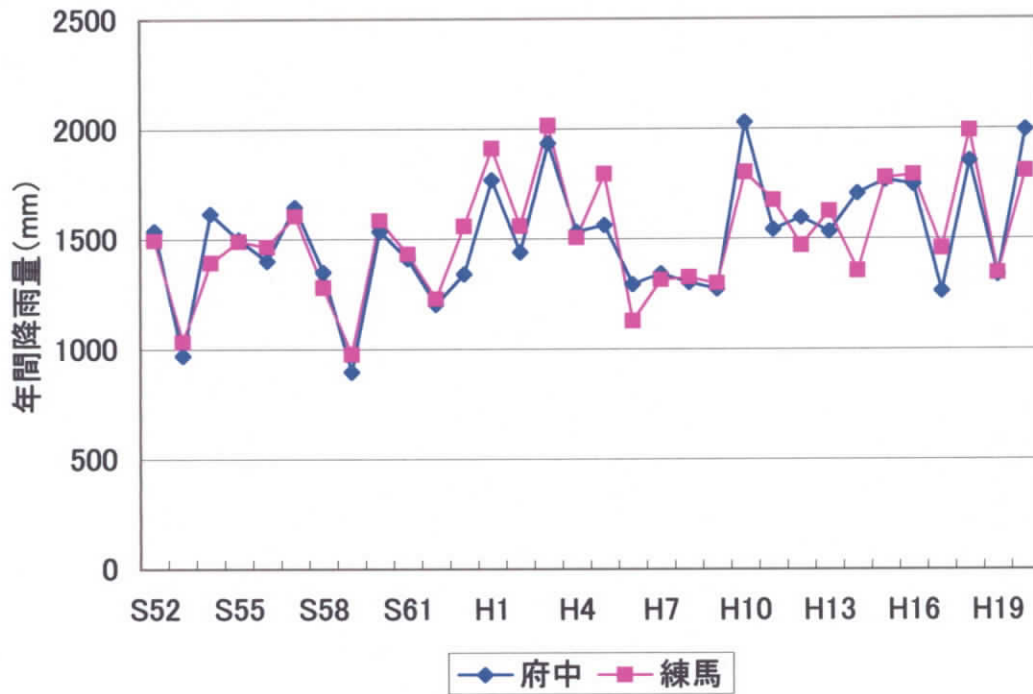
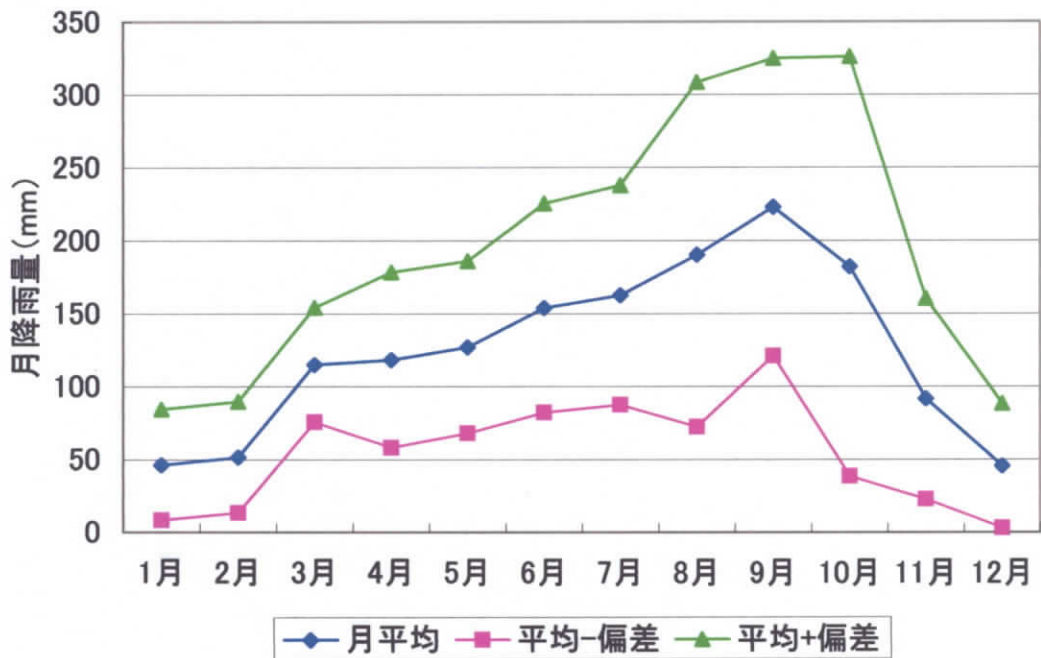


図-7 月別降雨量(府中)



图一8 地下水揚水量变化

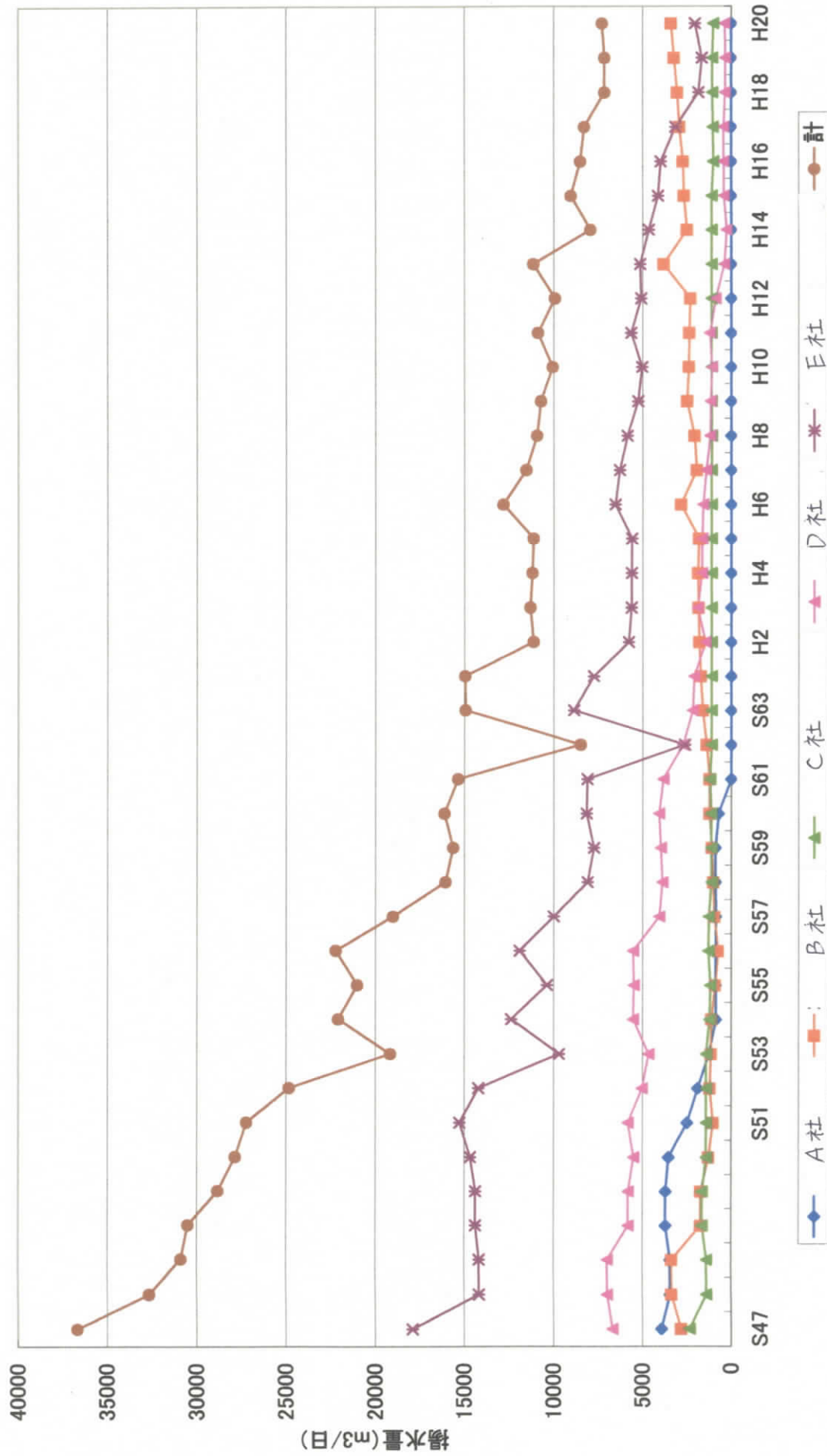


图-9 测定对象井戸位置图

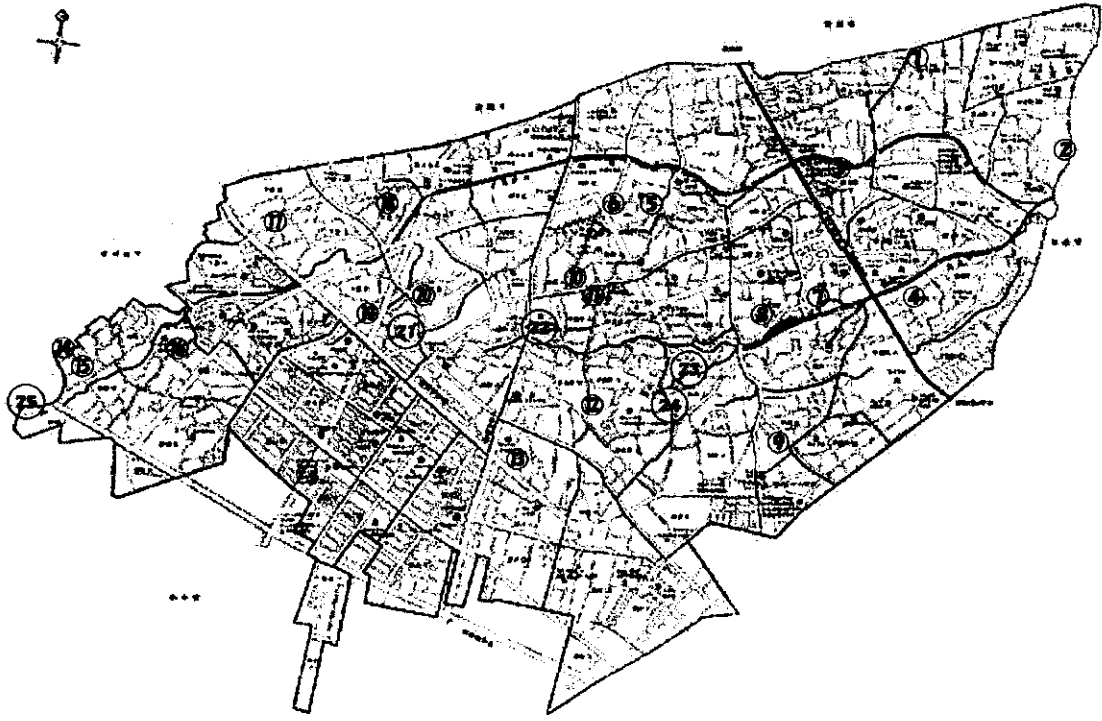


表-2 黒目川流域井戸水位測定位置一覧

単位:標高T.P.(m)

(a)かんきょう東久留米 所載(H16.11～、全25箇所)

位置種別		NO.	所在地	基準高	井戸底	平均水位	備考
黒目川	左岸台地	14	柳窪4	68.34	59.84	61.60	測定不能9回
		15	柳窪4	68.09	59.34	61.22	測定不能8回
		17	下里5	61.67	55.97		全測定不能
		1	金山町1	53.27	38.51	39.75	
	川沿い	25	柳窪3	66.90	62.32	60.88	逆転不詳
		16	柳窪1	63.42	55.75	58.54	
		19	下里2	60.12	54.22	55.17	
		20	下里1	60.29	53.09		全測定不能
		18	下里7	58.29	50.13	51.83	
		6	幸町2	52.15	46.22	47.23	
		5	幸町2	51.07	45.37	46.74	
		3	東本町	46.76	41.88	42.00	測定不能8回
		2	神宝町2	40.38	36.51	36.82	
		黒目川・落合川間台地	21	下里2	59.71	51.69	52.61
10	幸町3		55.70	47.90	49.42		
11	中央町6		55.63	47.89	49.39		
落合川	川沿い	22	八幡町2	56.94	49.14	50.61	
		23	南沢3	51.88	36.63	48.47	
		8	本町4	48.08	44.09		測定記録無し
		7	本町1	46.60	43.42	43.85	
		4	浅間町1	45.95	41.01	42.11	
	右岸台地	13	前沢1	61.21	50.51	53.25	測定不能11回
		12	中央町3	58.14	51.43	51.04	測定不能11回、逆転不詳
		24	中央町3	55.35	不詳	49.08	
立野川	川沿い					測定箇所無し	
	右岸台地	9	南沢2	58.71	47.05	49.04	

\*平均水位、測定不能回数は平成19年度の値

(b)東京都・環境局

位置種別	NO.	所在地	基準高	深さ(m)	平均水位	備考
黒目川・落合川合流点	研59	神宝町1	39.8	85～90	12～13	S48以来計測、平均水位は近年値。 基準高は地盤高



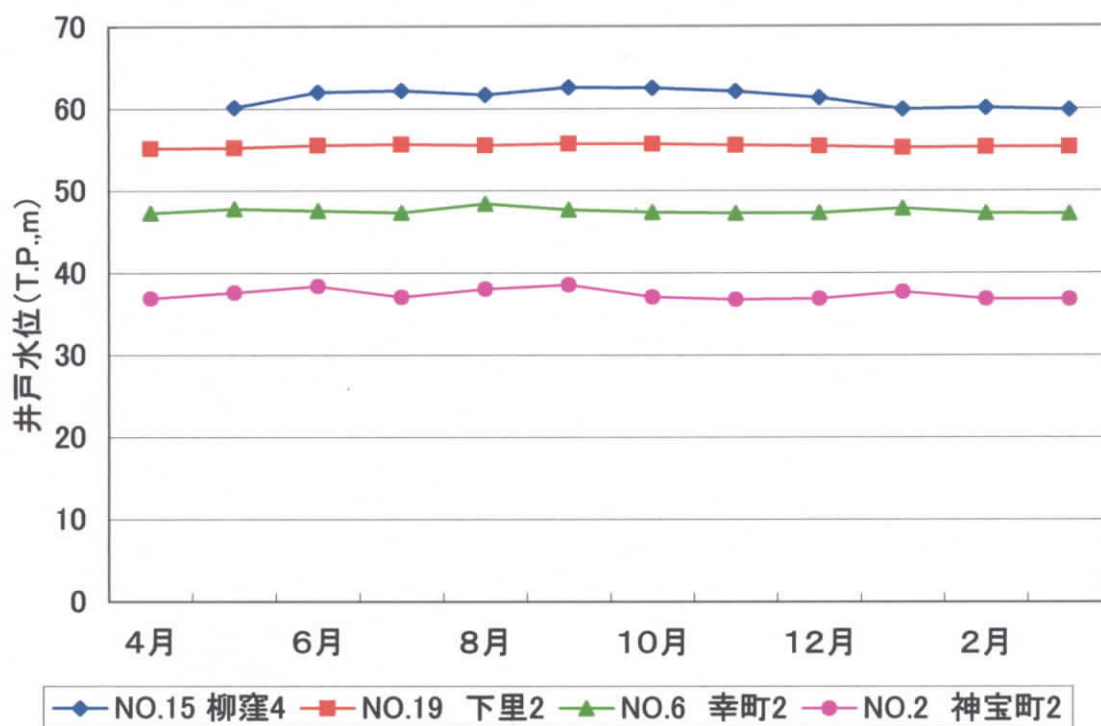
表-3 黒目川流域井戸水位測定結果(総括表)

NO.	所在地	井戸底	H17	H18	H19	H20	単位: T.P.(m)
黒目川左岸台地	14 柳窪4	欠測回数	7	3	9	3	
		平均	62.54	63.01	61.93	63.23	
		最高	59.84	59.84	59.84	59.84	
		最低	7	3	8	1	
黒目川左岸台地	15 柳窪4	欠測回数	7	3	8	1	
		平均	62.29	62.53	61.49	62.59	
		最高	59.34	59.34	59.34	59.34	
		最低	11	10	12	9	
黒目川左岸台地	17 下里5	欠測回数	56.06	56.75		58.29	
		平均	55.97	55.97		55.87	
		最高	39.52	39.99	39.75	40.56	
		最低	41.08	41.88	40.65	41.66	
黒目川沿い	1 金山町1	欠測回数	0	0	0	0	
		平均	60.67	61.69	60.88	61.99	
		最高	63.30	63.85	62.50	64.20	
		最低	58.70	58.70	58.87	58.95	
黒目川沿い	25 柳窪3	欠測回数	0	0	0	0	
		平均	59.92	58.74	59.67	60.39	
		最高	55.75	55.75	55.75	57.02	
		最低	54.22	54.22	54.50	55.12	
黒目川沿い	16 柳窪1	欠測回数	3	8	0	0	
		平均	55.41	58.54	59.17	59.17	
		最高	53.09	55.75	55.75	57.02	
		最低	55.62	56.27	55.52	55.72	
黒目川沿い	19 下里2	欠測回数	3	1	0	0	
		平均	55.62	56.27	55.52	55.72	
		最高	54.22	54.22	54.50	55.12	
		最低	8	12	12	7	
黒目川沿い	20 下里1	欠測回数	55.41	58.54	59.17	59.17	
		平均	53.09	55.75	55.75	57.02	
		最高	55.62	56.27	55.52	55.72	
		最低	54.22	54.22	54.50	55.12	
黒目川沿い	18 下里7	欠測回数	0	0	0	0	
		平均	51.81	51.90	51.81	51.81	
		最高	52.29	52.89	52.49	52.89	
		最低	51.46	51.29	51.31	50.13	
黒目川右岸台地	6 幸町2	欠測回数	47.25	47.40	47.23	47.52	
		平均	47.54	47.76	47.48	48.43	
		最高	46.92	47.01	46.98	47.23	
		最低	0	0	0	0	
黒目川右岸台地	5 幸町2	欠測回数	46.75	46.88	46.74	46.97	
		平均	46.98	47.16	46.93	47.65	
		最高	46.47	46.61	46.55	46.67	
		最低	46.47	46.61	46.55	46.67	
黒目川右岸台地	3 東本町	欠測回数	7	5	8	4	
		平均	42.21	43.17	42.09	43.12	
		最高	41.88	41.88	41.88	41.88	
		最低	0	0	0	0	
黒目川右岸台地	2 神宝町2	欠測回数	36.73	36.98	36.82	37.39	
		平均	37.16	37.42	37.13	38.57	
		最高	36.36	36.45	36.54	36.78	
		最低	36.36	36.45	36.54	36.78	
黒目川	9 南沢2	欠測回数	47.05	49.55	49.04	49.83	
		平均	50.09	50.48	49.70	50.93	
		最高	48.86	48.52	48.54	49.26	
		最低	48.86	48.52	48.54	49.26	
黒目川	22 八幡町2	欠測回数	49.14	50.91	50.61	51.07	
		平均	51.23	51.47	51.02	52.08	
		最高	50.14	49.98	49.85	50.56	
		最低	0	0	0	0	
黒目川	23 南沢3	欠測回数	36.63	48.59	48.47	48.69	
		平均	49.33	48.86	48.58	49.40	
		最高	48.33	48.29	48.25	48.43	
		最低	0	12	12	12	
黒目川	8 本町4	欠測回数	44.09	44.67	44.91	44.46	
		平均	44.67	44.91	44.46	44.46	
		最高	43.87	43.95	43.85	44.00	
		最低	44.07	44.20	43.93	44.66	
黒目川	7 本町1	欠測回数	43.42	43.79	43.72	43.80	
		平均	43.72	43.79	43.72	43.80	
		最高	42.36	42.39	42.11	42.46	
		最低	43.36	42.72	42.50	43.50	
黒目川	4 浅間町1	欠測回数	41.01	42.11	40.43	42.10	
		平均	42.05	42.11	40.43	42.10	
		最高	8	5	11	5	
		最低	50.51	50.51	50.51	50.51	
黒目川	13 前沢1	欠測回数	50.51	51.43	51.04	52.06	
		平均	51.43	51.43	51.43	51.40	
		最高	53.63	54.33	53.25	54.53	
		最低	50.51	50.51	50.51	50.51	
黒目川	12 中央町3	欠測回数	51.43	51.85	51.04	52.06	
		平均	51.45	51.85	51.04	52.06	
		最高	51.43	51.43	51.43	51.40	
		最低	9	0	0	0	
黒目川	24 中央町3	欠測回数	不詳	49.66	49.08	49.37	
		平均	49.66	49.08	49.37	49.86	
		最高	48.98	51.64	49.33	49.86	
		最低	***	49.10	48.58	49.01	
黒目川	9 南沢2	欠測回数	47.05	49.55	49.04	49.83	
		平均	50.09	50.48	49.70	50.93	
		最高	48.86	48.52	48.54	49.26	
		最低	48.86	48.52	48.54	49.26	

\*印 井戸底より低い計測値がある

斜め字: 欠測については井戸底を最低値とした

図-10 黒目川流域井戸水位変化(H20年度)(a)黒目川左岸～沿い



(b)落合川沿い～立野川

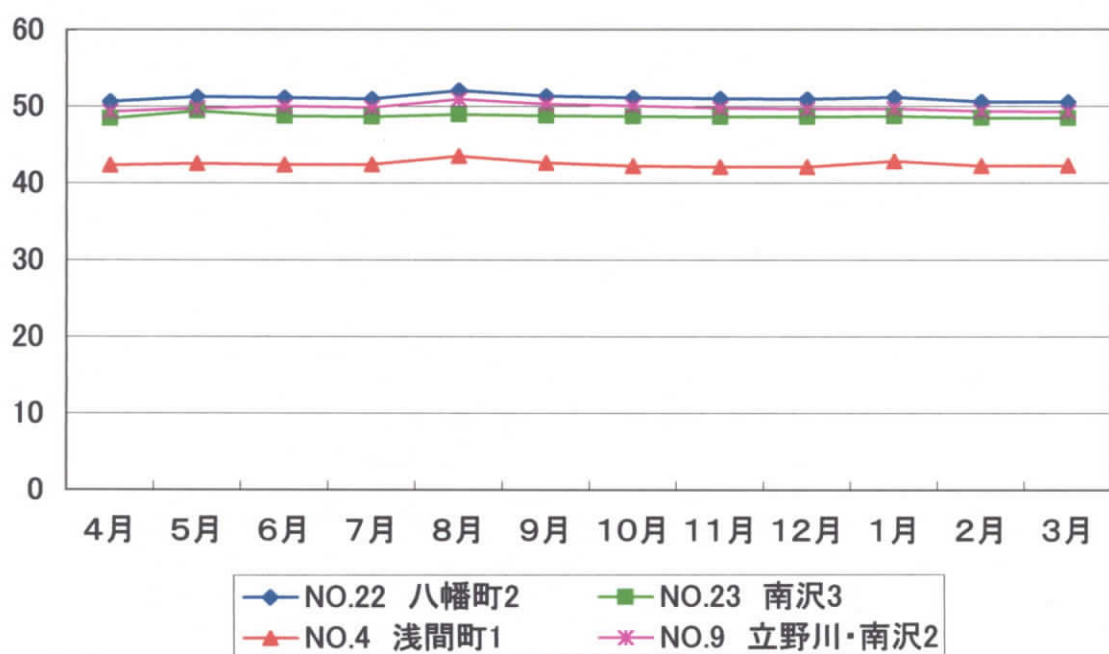
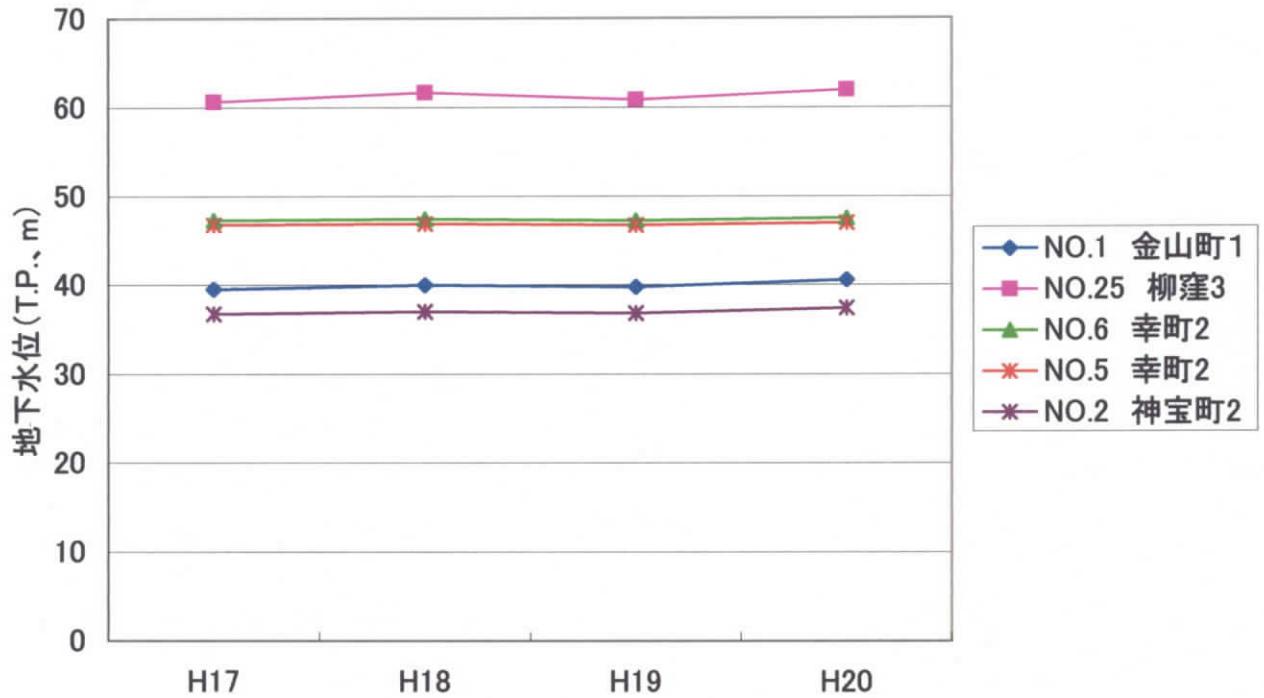


図-11 黒目川流域井戸水位経年変化 (a)黒目川左岸～沿い



(b)両川間～落合川沿い～立野川

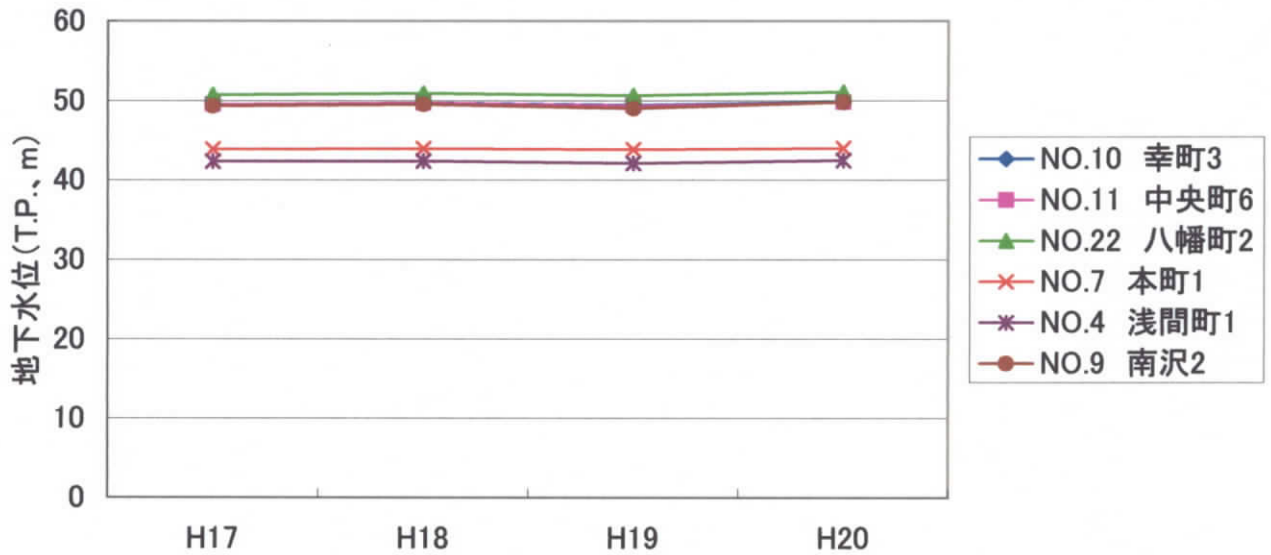
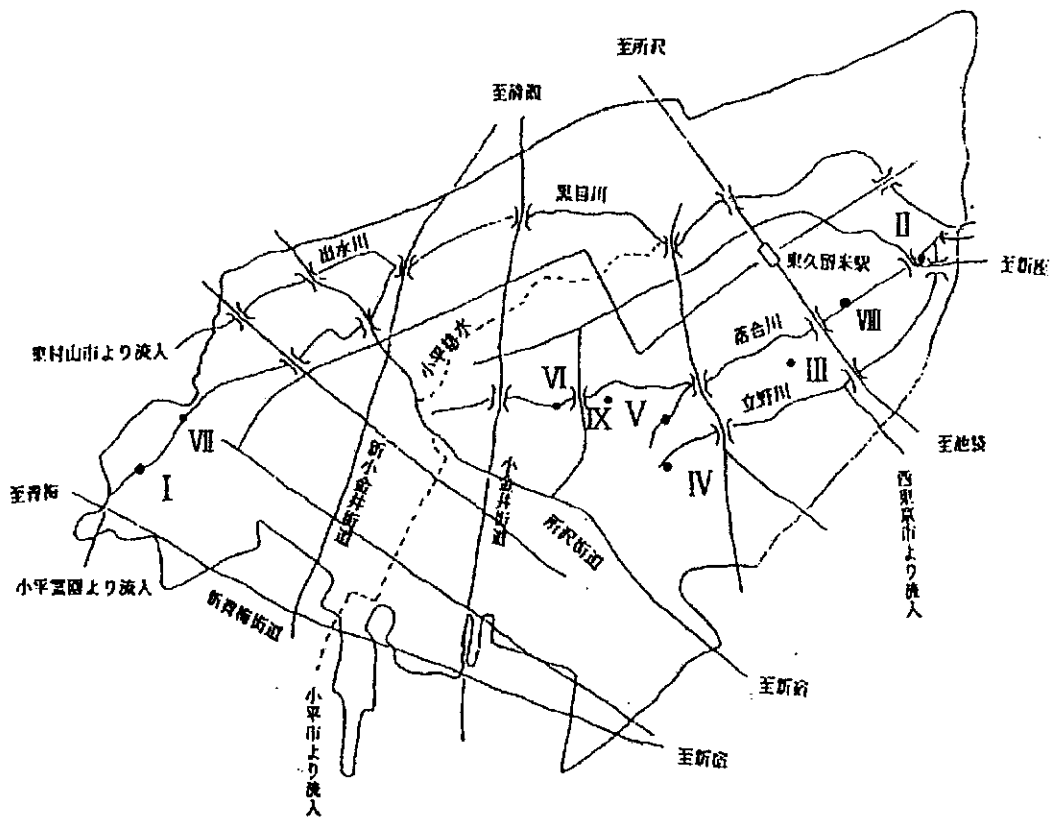


表-4 黒目川流域湧水調査一覧

	実施者	対象	調査箇所	調査時期	調査期間	調査内容	出典
A1	東久留米市	落合川	6~7ヶ所 *1	年1回	S53,56	水量 水質全般	東久留米の公害
A2		両水系	5~9ヶ所	年4回	H14~	水量 水質全般	かんきょう東久留米
B	同・市民 環境会議	両水系	全域	年2回	H20~	水量(目測) 水温、DO	(市への報告書)
C	東京都	落合川	2ヶ所 *2	年2回	S62、 H2~12	水量 水質全般	主要湧水地点水質調査

\*1 神明橋、ひょうたん池、南沢、竹林公園、不動橋、落合橋+西武鉄道下  
\*2 南沢緑地保全地域内、竹林公園

図-12 湧水調査位置図



- I 黒目川・・・柳窪四丁目15番先 天神橋上流
- II 落合川・・・浅間町二丁目5番先 閻魔(えんま)堂
- III 落合川・・・南沢一丁目7番先 竹林公園
- IV 立野川・・・南沢三丁目16番先 向山緑地公園
- V 落合川・・・南沢三丁目9番先 宮前橋上流-南沢氷川神社付近
- VI 落合川・・・中央町六丁目4番先 神明通り上流
- VII 黒目川・・・柳窪五丁目8番先 黒目川第10小学校裏
- VIII 落合川・・・新川町一丁目18番先 不動橋広場
- IX 落合川・・・中央町三丁目8番先 神明山公園ひょうたん池

図-13 黒目川流域湧水量

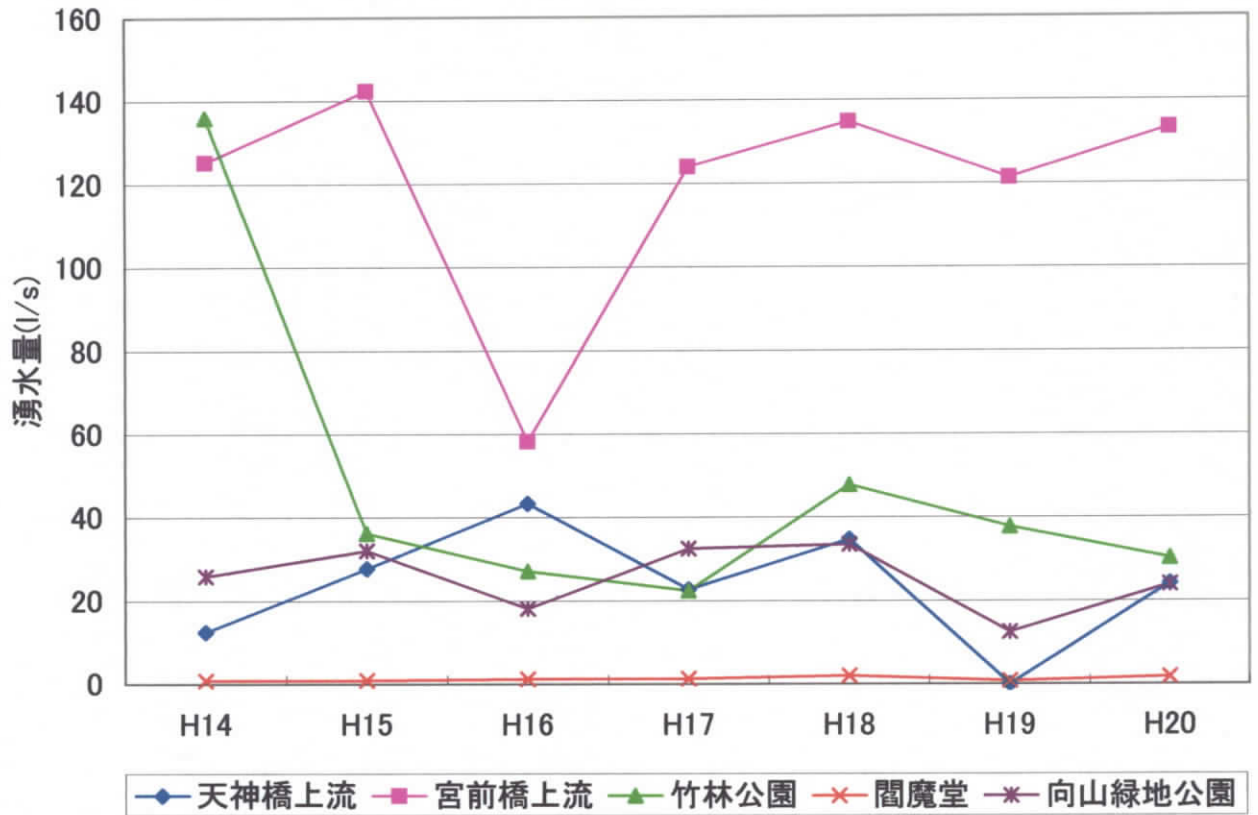
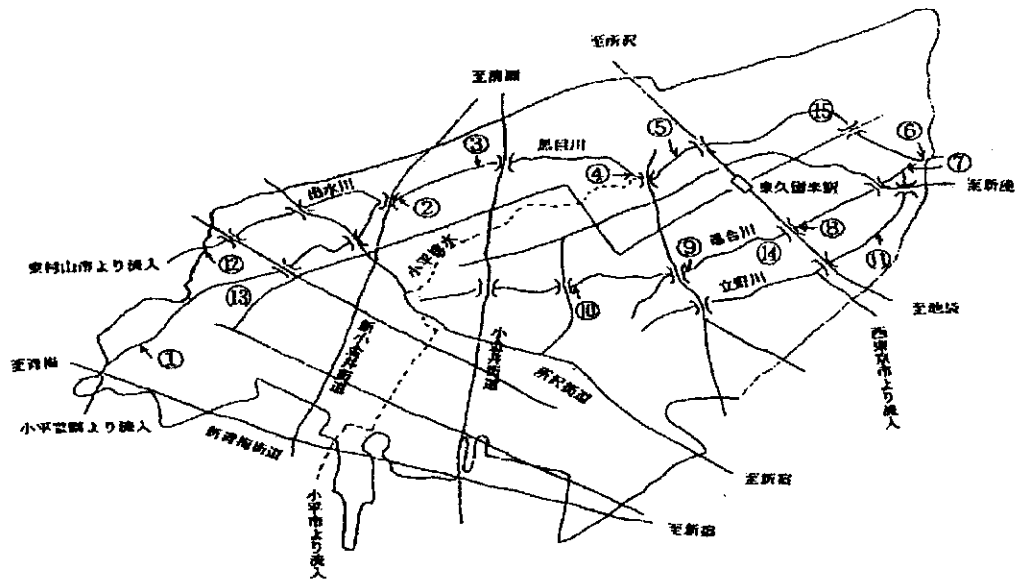


表-5 黒目川水系河川流量調査一覧

	実施者	名称	時期	調査対象	
A1	東久留米市	(全)河川水質調査	S53~	黒目川 6~9ヶ所 落合川 2~6ヶ所	
A2		(別途特別調査)	S51,52,53,56,58、 H2~6	黒目川 and/or 落合川	
B1	東京都	環境局	公共用水域 水質測定	H10~20	黒目川、落合川各1ヶ所 (都県境、下谷橋)
B2		北北建	(不詳)	H6~10	落合川 12ヶ所

図-14 河川水質採取地点図



	河川名	採取場所		河川名	採取場所
①	黒目川	天神橋	⑨	落合川	毘沙門橋
②	黒目川	本邑橋	⑩	落合川	神明橋
③	黒目川	養護学校前	⑪	立野川	小沢橋
④	黒目川	小平排水合流点	⑫	出水川	柳泉園上流
⑤	黒目川	下田橋	⑬	黒目川	無名橋
⑥	黒目川	埼玉県境	⑭	落合川	いこいの水辺
⑦	落合川	下谷橋	⑮	黒目川	門前大橋
⑧	落合川	西武鉄道ガード下			

表一6 黒目川・落合川水系流量調査 時期・個所一覧

		東久留米市										東京都			
		かんきょう東久留米～東久留米市の公害										環境局	北北建		
年度	H12～20	H6～11	H2～H6	S58	S57	S56	S54～56	S53	S53	S52	S52	S51	H10～20	H6～10	
調査方法	年4回 日1回	年3 ～4回 日1回	この間 1回 24時間	*1 1回 24時間	*2 1回 24時間	年2 ～3回 日1回	*3 1回	年1回 日1回	1回 日1回	S52 *4 通年 月1回 日1回	S52 1回	S51 *5 通年 月1回 日1回	毎月1回 日2回	主として 年2回 日1回	
黒目川水系	黒目川														
	「上流」														
	天神橋	①	①		A	①		①	①						
	出水川合流前				B										
	平成橋			②	C						⑥				
	本色橋	②	③			③		③	③						
	養護学校前	③	⑨			⑨		⑨	⑨						
	小平排水合流前	④	⑦		D										
	小平排水合流点	⑤	④		E										
	下田橋					④		④	④						
黒目橋					③										
都県境	⑥	⑧			⑧		⑧	⑧					○		
出水川	⑪	②			②		②	②			⑧				
市境(柳泉園上流)															
合流前					①						⑦				
保健所裏															
楊柳川															
(小平排水)					⑩										
合流前					⑩										
落合川					⑩										
「(曇)上流」					⑩										
神明橋	⑩	⑪					⑤							○	
南沢湧水合流前							④							○	
昆沙門橋	⑨	⑥					③								
老松橋															
竹林公園															
西武緑がード下	⑧	⑩					(2)								
落合橋					⑤		①							○	
下谷橋	⑦	④					⑦							○	
小澤橋	⑫	⑤					⑤							○	
合流前					⑥		(6)								

\*1 別途、立野川への流入排水路2個所、\*2 A;山崎排水合流後、\*3 報告書はS57年度別冊、\*4 別途、不動橋  
 \*5 別途、野火止水1個所、\*6 別途、弁天橋下流、御成橋、上旧川、地藏橋、大黒橋、こぶし橋、宮下橋

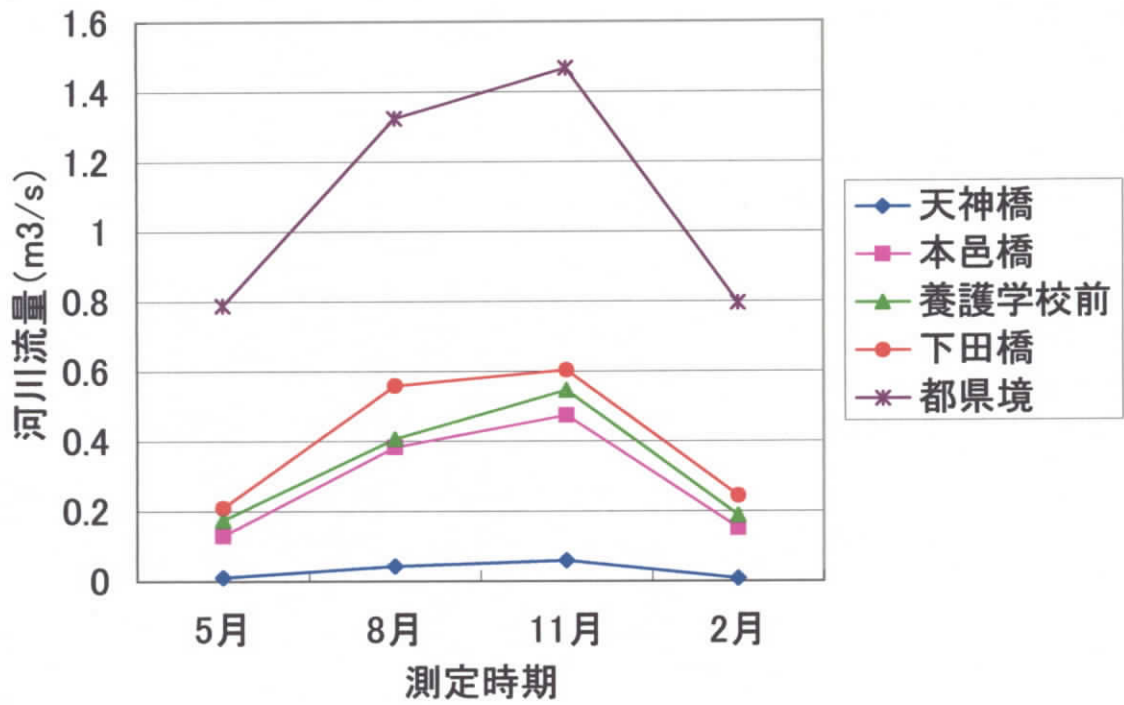
表一7 黒目川水系河川流量 年平均/経年変化

単位: m<sup>3</sup>/s

	黒目川					出水川				楊柳川				落合川				立野川	備考 (市調査分)
	天神橋	本邑橋	養護学校	小平排水 合流点	下田橋	都県境	同左 (都環境)	市境	保健所裏 ~合流点	神明橋	同左 (都北北)	毘沙門 橋	西武線 ガード下	下谷橋	同左 (都北北 ~環境)	小澤橋			
S53	0.13	0.32			0.70	0.71		0.09	0.25		0.29				0.17	S53~56; 年1回測定			
S54	0.06	0.39	0.45		0.65	1.92		0.06	0.09		0.56	0.69			0.20	時期バラバラ			
S55	0.08	0.29	0.39		0.50	1.38		0.20	0.09		0.29	0.45			0.20				
S56	0.05	0.20	0.28		0.42	1.68		0.08	0.07		0.37	0.40			0.13				
S57	0.09	0.41	0.38		0.53	1.33		0.10	0.08	0.21	0.33	0.45			0.14	S57~H3; 年2回測定			
S58	0.03	0.23	0.27		0.38	0.92		0.07	0.06	0.12	0.22	0.37			0.14	6,7&11,12月の平均			
S59	0.03	0.21	0.22		0.32	0.80		0.07	0.05	0.04	0.10	0.13			0.08				
S60	0.02	0.22	0.27		なし	1.08		0.07	0.06	0.08	0.23	0.29			0.12				
S61	0.03	0.22	0.25		0.37	1.10		0.06	0.07	0.07	0.25	0.31			0.13				
S62	0.03	なし	なし		0.28	0.99		0.05	0.05	0.06	0.17	0.29			0.14				
S63	0.02	0.20	0.24		0.28	1.02		0.06	0.03	0.08	0.24	0.29			0.09				
H1	0.03	0.27	0.31		0.38	1.12		0.06	0.04	0.11	0.33	0.56			0.14				
H2	0.05	0.30	0.34		0.49	1.33		0.09	0.03	0.12	0.34	0.48			0.09				
H3	0.05	0.41	0.51		0.60	1.13		0.07	0.05	0.13	0.49	0.59			0.11				
H4	0.03	0.25	0.34		0.45	1.41		0.08	0.12	0.13	0.43	0.48			0.11	H4~9; 年3回測定			
H5	0.03	0.24	0.33		0.45	1.01		0.06	0.06	0.12	0.29	0.37			0.09	但し、平均は 4&12月を対象			
H6	0.03	0.25	0.35		0.43	0.91		0.13	0.05	0.11	0.14	0.20	0.37	0.99	0.05				
H7	0.02	0.17	0.24		0.25	0.74		0.45	0.05	0.06	0.05	0.19	0.24	0.62	0.05				
H8	0.02	0.21	0.23		0.25	0.71		0.05	0.03	0.07	0.12	0.22	0.22	0.39	0.05				
H9	0.02	0.12	0.16		0.22	0.61		0.00	0.03	0.05	0.06	0.15	0.25	0.41	0.05				
H10	0.04	0.35	0.38		0.46	1.14		1.31	0.03	0.12	0.15	0.32	0.45	0.69	0.10	H10~20; 年4回測定			
H11	0.04	0.38	0.37		0.42	1.14		0.89	0.04	0.11	0.29	0.40		0.56	0.10	平均は全てを対象			
H12	0.03	0.25	0.30		0.31	0.80		1.04	0.03	0.08	0.20	0.35	0.46	0.55	0.05				
H13	0.03	0.20	0.27		0.32	0.75		0.86	0.03	0.07	0.24	0.31	0.45	0.56	0.05				
H14	0.03	0.19	0.32	0.26	0.30	0.87		0.99	0.03	0.09	0.29	0.33	0.64	0.66	0.07				
H15	0.04	0.38	0.40	0.42	0.52	1.41		1.06		0.17	0.42	0.51	0.63	0.64	0.12				
H16	0.04	0.34	0.37	0.65	0.60	1.35		1.00		0.11	0.36	0.23	0.68	0.59	0.08				
H17	0.02	0.30	0.33	0.39	0.39	1.19		0.84		0.09	0.33	0.54	0.77	0.57	0.10				
H18	0.03	0.32	0.36	0.43	0.47	1.27		1.26		0.22	0.47	0.61	0.97	0.85	0.17				
H19	0.00	0.16	0.23	0.26	0.27	0.87		1.04		0.11	0.27	0.41	0.61	0.71	0.04				
H20	0.03	0.25	0.28	0.35	0.40	1.24		1.34		0.11	0.34	0.44	0.72	0.79	0.08				



図-15 黒目川水系流量 月変化 (a)黒目川



(b)落合川

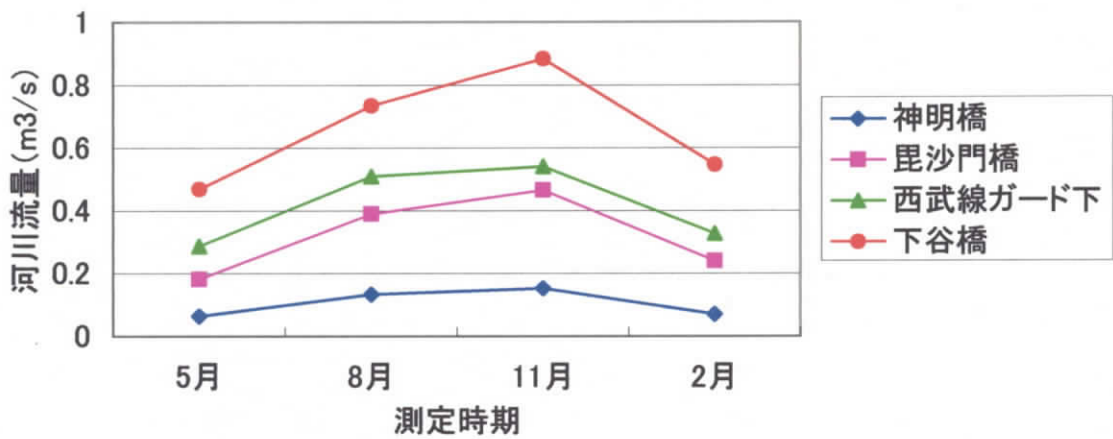
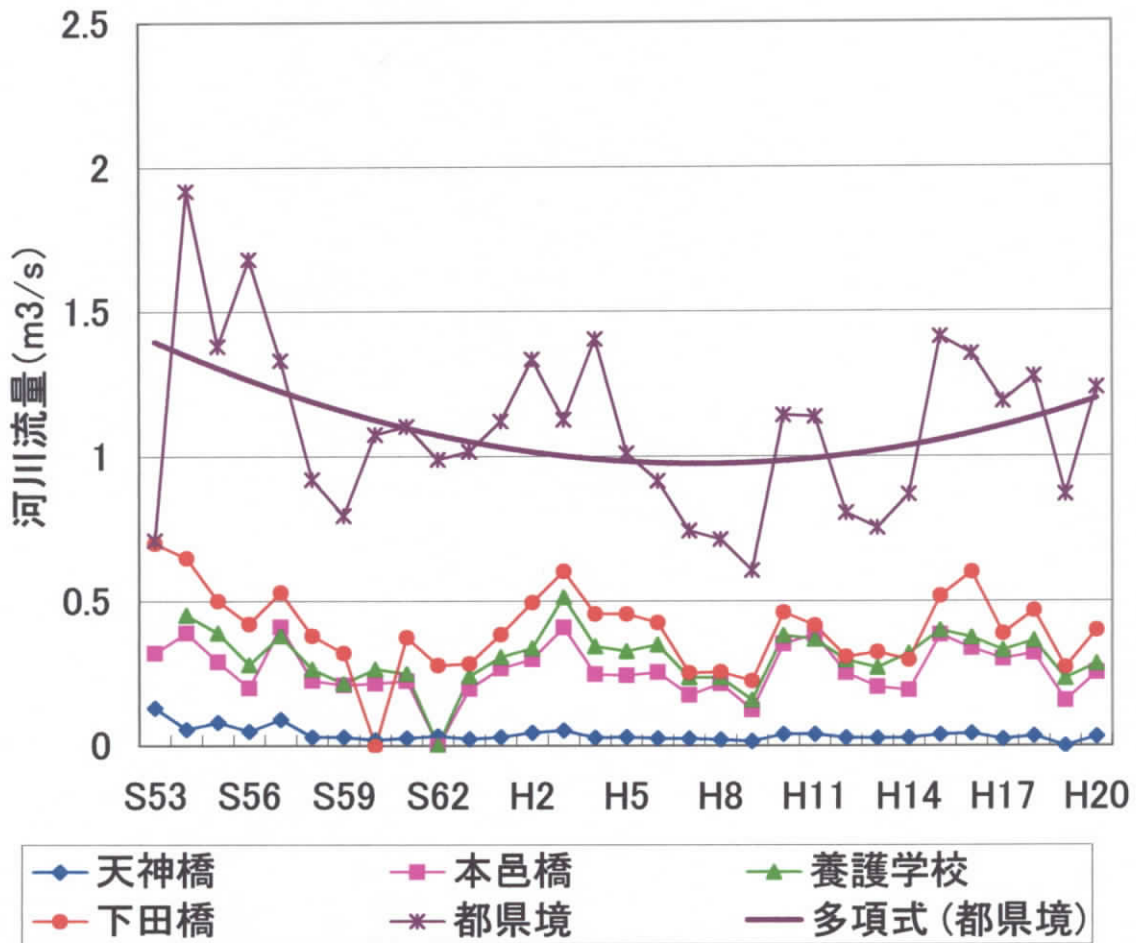
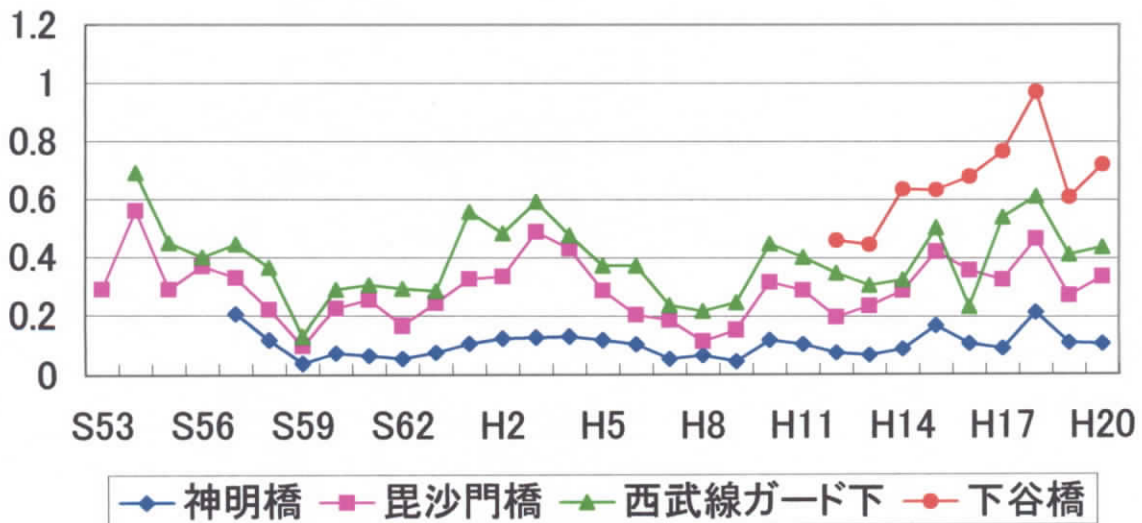


図-16 黒目川水系河川流量(a)黒目川



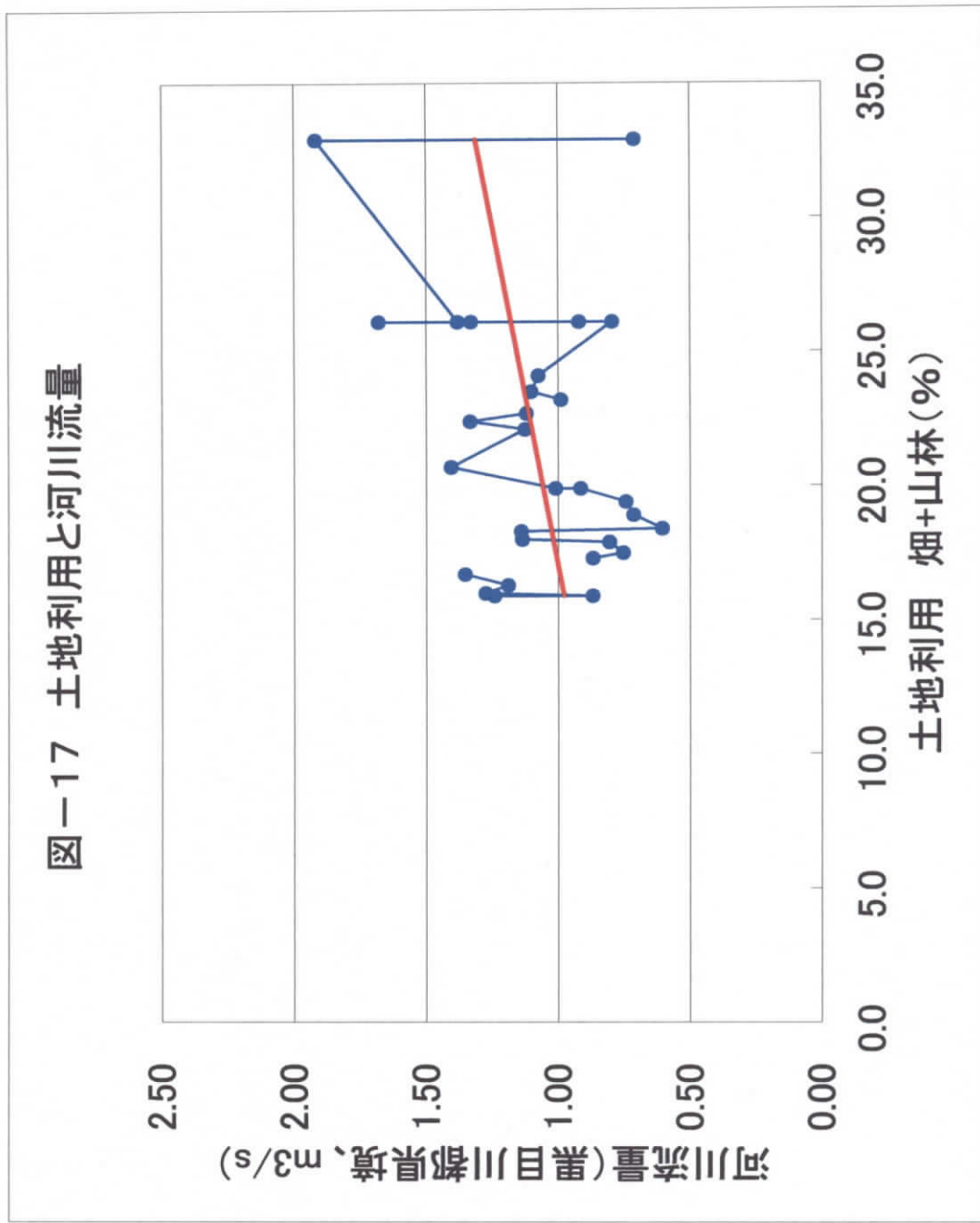
(b) 落合川



	土地利用 畑+山林 (%)	河川流量 黒目川・都 県境 (m <sup>3</sup> /s)
S52	32.9	0.71
S53	32.9	1.92
S54	26.1	1.38
S55	26.1	1.68
S56	26.1	1.33
S58	26.1	0.92
S59	26.1	0.80
S60	24.1	1.08
S61	23.5	1.10
S62	23.2	0.99
S63		1.02
H1	22.7	1.12
H2	22.4	1.33
H3	22.1	1.13
H4	20.7	1.41
H5	19.9	1.01
H6	19.9	0.91
H7	19.4	0.74
H8	18.9	0.71
H9	18.4	0.61
H10	18.3	1.14
H11	18.0	1.14
H12	17.9	0.80
H13	17.5	0.75
H14	17.3	0.87
H15		1.41
H16	16.7	1.35
H17	16.3	1.19
H18	16.0	1.27
H19	15.9	0.87
H20	15.9	1.24

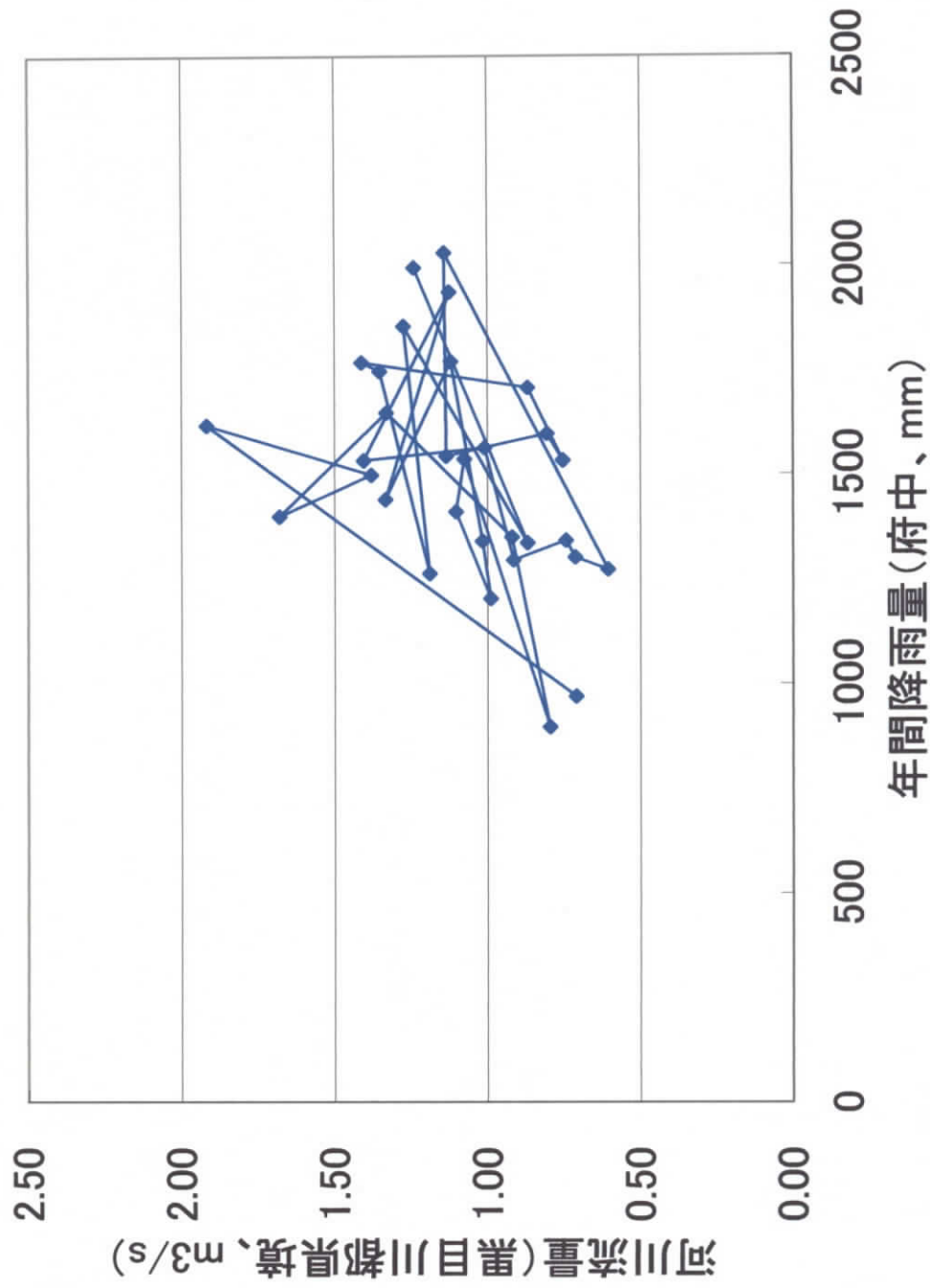
相関係数 0.305 (全データ) 0.463 (S53~H14)

図-17 土地利用と河川流量



	降雨量 府中 (mm/ 年)	河川流量 黒目川・都 県境 (m <sup>3</sup> /s)
S52	1538	
S53	970	0.71
S54	1617	1.92
S55	1499	1.38
S56	1400	1.68
S57	1647	1.33
S58	1350	0.92
S59	897	0.80
S60	1536	1.08
S61	1411	1.10
S62	1203	0.99
S63	1341	1.02
H1	1770	1.12
H2	1440	1.33
H3	1935	1.13
H4	1533	1.41
H5	1563	1.01
H6	1295	0.91
H7	1342	0.74
H8	1302	0.71
H9	1273	0.61
H10	2030	1.14
H11	1543	1.14
H12	1597	0.80
H13	1533	0.75
H14	1707	0.87
H15	1768	1.41
H16	1747	1.35
H17	1263	1.19
H18	1854	1.27
H19	1336	0.87
H20	1994	1.24

図-18 降雨量と河川流量



相関係数 0.435 (全データ) 0.531 (S57~H20)

# 植物種調査報告書

## 1 植物種調査記録

※ 本調査は、行政や学校や市民団体等が過去に行った植物種調査の結果を一覧表にまとめ、その結果を市内24名の有志に配布し、現在でもその種が見られるか、また、新たに見られた種があるかを調査した結果をまとめたものです。

※ とりあえずの結果として発表し、今後、増補、改訂しながらさらに充実したものに仕上げていく所存です。皆様方のご協力をお願いいたします。

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

草 本			
	種 名	科 名	チェック
1	アオイスマレ	スマレ科	○
2	アオカモジグサ	イネ科	○
3	アオゲイトウ	ヒユ科	○
4	アオスゲ	カヤツリグサ科	○
5	アオツツラフジ	ツツラフジ科	○
6	アオビユ	ヒユ科	○
7	アオミズ	イラクサ科	○
8	アカカモジグサ	イネ科	
9	アカザ	アカザ科	○
10	アカソ	イラクサ科	○0
11	アカツメクサ(ムラサキツメクサ)	マメ科	○
12	アカネ	アカネ科	○
13	アカネスマレ	スマレ科	○
14	アカバナ	アカバナ科	○0
15	アカバナユウゲショウ	アカバナ科	○0
16	アキカラマツ	キンボウゲ科	○
17	アキノウナギツカミ	タデ科	○
18	アキノエノコログサ	イネ科	○
19	アキノキリンソウ	キク科	○
20	アキノタムラソウ	シソ科	○
21	アキノノゲシ	キク科	○
22	アキノハハコグサ	キク科	○
23	アキメヒシバ	イネ科	○
24	アケボノスマレ	スマレ科	○
25	アサガオ	ヒルガオ科	○
26	アシカキ	イネ科	
27	アジサイ	ユキノシタ科	○
28	アシボソ	イネ科	○
29	アズマイチゲ	キンボウゲ科	○0
30	アゼガヤツリ	カヤツリグサ科	○
31	アゼスゲ	カヤツリグサ科	○
32	アゼトウガラシ	ゴマノハグサ科	○
33	アゼナ	ゴマノハグサ科	○
34	アゼナルコ	カヤツリグサ科	○
35	アブラガヤ	カヤツリグサ科	○0
36	アブラススキ	イネ科	○
37	アブラナ	アブラナ科	○
38	アマチャヅル	ウリ科	○
39	アマドコロ	ユリ科	○
40	アマナ	ユリ科	○
41	アメリカアゼナ	ゴマノハグサ科	○
42	アメリカイヌホウズキ	ナス科	○
43	アメリカオニアザミ	キク科	○0△
44	アメリカスズメノヒエ	イネ科	
45	アメリカスマレサイシン	スマレ科	○0
46	アメリカセンダングサ	キク科	○△
47	アメリカフウロ	フウロソウ科	○
48	アメリカミズキンバイ	アカバナ科	○0
49	アリアケスマレ	スマレ	○0
50	アリタソウ	アカザ科	

草 本			
	種 名	科 名	チェック
51	アレチウリ	ウリ科	○×
52	アレチギシギシ	タデ科	○
53	アレチノギク	キク科	○
54	アレチマツヨイグサ(メマツヨイグサ)	アカバナ科	○△
55	アワガエリ	イネ科	○
56	アワコガネギク(キクタニギク)	キク科	○
57	イ	イグサ科	○
58	イカリソウ	メギ科	○
59	イグサ	イグサ科	○0
60	イシミカワ	タデ科	○
61	イタドリ	タデ科	○
62	イチゴツナギ	イネ科	○
63	イチヤクソウ	イチヤクソウ科	○
64	イチリンソウ	キンボウゲ科	○
65	イヌアワ	イネ科	○0
66	イヌカキネガラシ	アブラナ科	○0
67	イヌガラシ	アブラナ科	○
68	イヌキクイモ	キク科	○
69	イヌコウジュ	シソ科	○
70	イヌゴマ	シソ科	○
71	イヌシダ	コバノイシカグマ科	
72	イヌショウマ	キンボウゲ科	○
73	イヌタデ	タデ科	○
74	イヌトウバナ	シソ科	○
75	イヌナズナ	アブラナ科	○0
76	イヌノフグリ	ゴマノハグサ科	○0
77	イヌビエ	イネ科	○
78	イヌビユ	ヒユ科	○
79	イヌホウズキ	ナス科	○
80	イヌムギ	イネ科	○
81	イヌワラビ	メシダ科	○
82	イノコズチ	ヒユ科	○
83	イノデ	オシダ科	○
84	イノモトソウ	イノモトソウ科	○
85	イブキボウフウ	セリ科	
86	イボクサ	ツユクサ科	○
87	イモカタバミ	カタバミ科	○
88	イラクサ	イラクサ科	○0
89	イワガネソウ	イノモトソウ科	○
90	イワダレソウ	クマツヅラ科	○0
91	イワニガナ	キク科	○
92	イワヒメワラビ	コバノイシカグマ科	○
93	ウキアゼナ	ゴマノハグサ科	
94	ウキクサ	ウキクサ科	○
95	ウキヤガラ	カヤツリグサ科	○0
96	ウシクサ	イネ科	○
97	ウシハコベ	ナデシコ科	○
98	ウスアカカタバミ	カタバミ科	○
99	ウツボグサ	シソ科	○
100	ウド	ウコギ科	○□

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

101	ウバユリ	ユリ科	○		
102	ウマノアシガタ(キンボウゲ)	キンボウゲ科	○		
103	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	○		
104	ウメガサソウ	イチヤクソウ科			
105	ウメバチソウ	ユキノシタ科	○		
106	ウラシマソウ	サトイモ科	○		
107	ウラジロチチヨグサ	キク科	○		
108	ウリクサ	ゴマノハグサ科	○		
109	エゾノギシギシ	タデ科	○△		
110	エナシヒゴグサ	カヤツリグサ科	○		
111	エノキグサ	トウダイグサ科	○		
112	エノコログサ	イネ科	○		
113	エビスグサ	マメ科	○0		
114	エビソル	ブドウ科	○		
115	エビネ	ラン科	○※		
116	エビモ	ヒルムシロ科	○		
117	オオアカウキクサ	アカウキクサ科	○0※		
118	オオアブラススキ	イネ科	○		
119	オオアマナ	ユリ科	○		
120	オオアラセイトウ(ハナダイコン)	アブラナ科	○		
121	オオアレチノギク	キク科	○△		
122	オオアワガエリ	イネ科	○0△		
123	オオアワダチソウ	キク科	○△		
124	オオイチゴツナギ	イネ科	○		
125	オオイヌタデ	タデ科	○		
126	オオイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ科			
127	オオイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	○		
128	オオエノコロ	イネ科	○		
129	オオオナモミ	キク科	○△		
130	オオカナダモ	トチカガミ科	○△		
131	オオカワヂシャ	ゴマノハグサ科	○0×		
132	オオキバナカタバミ	カタバミ科	○0		
133	オオキンケイギク	キク科	○×		
134	オオクサキビ	イネ科	○		
135	オオケタデ	タデ科	○		
136	オオジシバリ	キク科	○		
137	オオダイコンソウ	バラ科			
138	オオチドメ	セリ科	○		
139	オオナンバンギセル	ハマウツボ科			
140	オオニシキソウ	トウダイグサ科	○		
141	オオバインモトソウ	イノモトソウ科	○		
142	オオバギボウシ	ユリ科	○		
143	オオバコ	オオバコ科	○		
144	オオバジャノヒゲ	ユリ科	○		
145	オオバタネツケバナ	アブラナ科	○		
146	オオバタンキリマメ	マメ科			
147	オオバトンボソウ	ラン科	○		
148	オオハナワラビ	ハナヤスリ科	○		
149	オオバナガナ	キク科	○		
150	オオバノイノモトソウ	イノモトソウ科	○		

151	オオハンゴンソウ	キク科	○0×		
152	オオフサモ	アリノコウサ科	○×		
153	オオブタクサ	キク科	○0△		
154	オオマツヨイグサ	アカバナ科	○		
155	オオмамシグサ	サトイモ科	○0		
156	オオミノソバ	タデ科	○		
157	オオヤブジラミ	セリ科	○		
158	オカスマレ	スマレ科			
159	オカトラノオ	サクラソウ科	○		
160	オギ	イネ科	○		
161	オキザリス・ブラジリエンス	カタバミ科	○0		
162	オキナグサ	キンボウゲ科	○		
163	オクマワラビ	オシダ科	○		
164	オケラ	キク科	○		
165	オシロイバナ	オシロイバナ科	○□		
166	オッタチカタバミ	カタバミ科	○		
167	オトギリソウ	オトギリソウ科	○		
168	オトコエシ	オミナエシ科	○		
169	オトコヨモギ	キク科	○		
170	オドリコソウ	シソ科	○		
171	オナモミ	キク科	○		
172	オニウシノケグサ	イネ科	○△		
173	オニタビラコ	キク科	○		
174	オニドコロ	ヤマノイモ科	○		
175	オニナルコスゲ	カヤツリグサ科			
176	オニノゲシ	キク科	○		
177	オニノヤガラ	ラン科	○		
178	オニバス	スイレン科	○0		
179	オニヤブソテツ	オシダ科	○		
180	オニユリ	ユリ	○0		
181	オヒシバ	イネ科	○		
182	オヘビイチゴ	バラ科	○		
183	オミナエシ	オミナエシ科	○		
184	オモダカ	オモダカ科	○		
185	オモト	ユリ科	○		
186	オヤブジラミ	セリ科	○		
187	オランダガラシ(クレソン)	アブラナ科	○△		
188	オランダミミナグサ	ナデシコ科	○		
189	ガガイモ	ガガイモ科	○		
190	カキドウシ	シソ科	○		
191	カキネガラシ	アブラナ科	○		
192	カザグルマ	キンボウゲ科	○		
193	カサスゲ	カヤツリグサ科	○		
194	カシワバハグマ	キク科	○		
195	カスマグサ	マメ科	○		
196	カゼクサ	イネ科	○		
197	カセンソウ	キク科	○		
198	カタバミ	カタバミ科	○		
199	カナムグラ	クワ科	○		
200	カニクサ	フサンダ科	○		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

201	カニツリグサ	イネ科	○		
202	ガマ	ガマ科	○		
203	カモガヤ	イネ科	○△		
204	カモジグサ	イネ科	○		
205	カヤツリグサ	カヤツリグサ科	○		
206	カラスウリ	ウリ科	○		
207	カラスノエンドウ(ヤハズエンドウ)	マメ科	○		
208	カラスノゴマ	シナノキ科	○		
209	カラスビシャク	サトイモ科	○		
210	カラスムギ	イネ科	○		
211	カラハナソウ	クワ科	○0		
212	カラムシ	イラクサ科	○		
213	カワヂシャ	ゴマノハグサ科	○※		
214	カワラケツメイ	マメ科	○		
215	カワラスガナ	カヤツリグサ科			
216	カワラスゲ	カヤツリグサ科	○		
217	カワラナデシコ	ナデシコ科	○		
218	カンアオイ	ウマノスズクサ科	○		
219	ガンクビソウ	キク科	○		
220	カンスゲ	カヤツリグサ科	○0		
221	カントウカンアオイ	ウマノスズクサ科	○0		
222	カントウタンポポ	キク科	○		
223	カントウヨメナ	キク科	○		
224	キエビネ	ラン科	○0		
225	キカラスウリ	ウリ科	○		
226	キキョウソウ	キキョウ科	○		
227	キクイモ	キク科	○△		
228	キクイモモドキ	キク科	○0		
229	ギシギシ	タデ科	○		
230	キジムシロ	バラ科	○		
231	キショウブ	アヤメ科	○△		
232	キチジョウソウ	ユリ科	○		
233	キツネアザミ	キク科	○		
234	キツネノカミソリ	ヒガンバナ科	○		
235	キツネノテブクロ	ゴマノハグサ科			
236	キツネノボタン	キンボウゲ科	○		
237	キツネノマゴ	キツネノマゴ科	○		
238	キツリフネ	ツリフネソウ科	○0		
239	キバナコスモス	キク科	○0		
240	ギボウシ	ユリ科	○0		
241	キミガヨラン	ユリ科	○□		
242	キュウリグサ	ムラサキ科	○		
243	ギョウギシバ	イネ科	○		
244	キランソウ	シソ科	○		
245	キンエノコロ(グサ)	イネ科	○		
246	ギンバイカ	フトモモ科	○0		
247	キンミズヒキ	バラ科	○		
248	キンラン	ラン科	○		
249	ギンラン	ラン科	○		
250	クサイ	イグサ科	○		

251	クサスゲ	カヤツリグサ科	○		
252	クサソテツ	メシダ科	○		
253	クサノオウ	ケシ科	○		
254	クサフジ	マメ科	○0		
255	クサマオ	イラクサ科	○		
256	クサヨシ	イネ科	○		
257	クサレダマ	サクラソウ科	○		
258	クズ	マメ科	○		
259	クチナシグサ	ゴマノハグサ科	○		
260	クマガイソウ	ラン科	○0		
261	クマワラビ	オシダ科	○		
262	クリナムポエリー	ヒガンバナ科	○0		
263	クルマバザクロソウ	ザクロソウ科	○		
264	クルマバナ	シソ科	○		
265	クロモ	トチカガミ科	○0		
266	クワクサ	クワ科	○		
267	クワモドキ	キク科	○		
268	グンバイナズナ	アブラナ科	○0		
269	ケアリタソウ	アカザ科	○		
270	ケイトウ	ヒユ科	○□		
271	ケイヌビエ	イネ科	○		
272	ケイツネノボタン	キンボウゲ科	○		
273	ゲジゲジシダ	ヒメシダ科	○		
274	ケチヂミザサ(コチヂミザサ)	イネ科	○		
275	ケマルバスマレ	スマレ科	○		
276	ゲンゲ	マメ科	○		
277	ゲンノショウコ	フウロソウ科	○		
278	コ(バノ)カモメヅル	ガガイモ科	○		
279	コアカザ	アカザ科	○		
280	コウガイゼキショウ	イグサ科	○		
281	ゴウシュウアリタソウ	アカザ科	○		
282	ゴウソ	カヤツリグサ科			
283	コウゾリナ	キク科	○		
284	コウヤワラビ	メシダ科	○		
285	コオニタビラコ	キク科	○		
286	コカナダモ	トチカガミ科	○△		
287	コガマ	ガマ科	○		
288	コケオトギリ	オトギリソウ科	○		
289	コゴメガヤツリ	カヤツリグサ科	○		
290	コシロノセンダングサ	キク科	○0		
291	コスミレ	スマレ科	○		
292	コスモス	キク科	○□		
293	コセンダングサ	キク科	○△		
294	コツブキンエノコロ	イネ科	○		
295	コナスビ	サクラソウ科	○		
296	コニシキソウ	トウダイグサ科	○		
297	コヌカグサ	イネ科	○		
298	コバギボウシ	ユリ科	○		
299	コハコベ	ナデシコ科	○		
300	コバンソウ	イネ科	○		



市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

301	コヒルガオ	ヒルガオ科	○		
302	コブナグサ	イネ科	○		
303	コボタンヅル	キンポウゲ科	○		
304	コマツナギ	マメ科	○		
305	コマツヨイグサ	アカバナ科	○△		
306	コミカンソウ	トウダイグサ科	○		
307	コメツブウマゴヤシ	マメ科	○0		
308	コメツブツメクサ	マメ科	○		
309	コメナモミ	キク科	○		
310	コメヒシバ	イネ科	○		
311	コモチマンネングサ	ベンケイソウ科	○		
312	コヤブタバコ	キク科	○		
313	コンフリー	ムラサキ科	○0		
314	サイハイラン	ラン科	○		
315	サギゴケ	ゴマノハグサ科	○		
316	サクラソウ	サクラソウ科	○0		
317	サクラタデ	タデ科	○		
318	ザクロソウ	ザクロソウ科	○		
319	ササガヤ	イネ科	○		
320	ササバギンラン	ラン科	○		
321	サジガクソウ	キク科	○0		
322	サデグサ	タデ科			
323	サトメシダ	メシダ科			
324	サナエタデ	タデ科			
325	サネカズラ	モクレン科	○		
326	サヤヌカクサ	イネ科			
327	サワゼリ	セリ科			
328	シオデ	ユリ科	○		
329	シケシダ	メシダ科	○		
330	ジシバリ	キク科	○		
331	シソ	シソ科	○		
332	シソクサ	ゴマノハグサ科	○0		
333	シナガワハギ	マメ科			
334	シバ	イネ科	○		
335	シマスズメノヒエ	イネ科	○		
336	シモバシラ	シソ科	○		
337	シャガ	アヤメ科	○		
338	シャクチリソバ	タデ科	○		
339	ジャノヒゲ(リュウノヒゲ)	ユリ科	○		
340	シュウカイドウ	シュウカイドウ科	○		
341	ジュウニキランソウ	シソ科	○		
342	ジュウニヒトエ	シソ科	○		
343	ジュンペリ	バラ科	○0		
344	シュクシャ	ショウガ科	○0		
345	ジュズスゲ	カヤツリグサ科	○		
346	ジュズダマ	イネ科	○		
347	シュンラン	ラン科	○		
348	ショウジョウソウ	トウダイグサ科	○0		
349	シラヤマギク	キク科	○		
350	シラン	ラン科	○0		

351	シロザ	アカザ科	○		
352	シロツメクサ	マメ科	○		
353	シロノセンダングサ	キク科	○0		
354	シロバナカザグルマ	キンポウゲ科	○		
355	シロバナサクラタデ	タデ科	○0		
356	シロバナタンポポ	キク科	○		
357	ジロボウエンゴサク	ケシ科	○		
358	シロモジズリ	ラン科	○		
359	シロヨメナ	キク科	○0		
360	スイートピー	マメ科	○□		
361	スイセン	ヒガンバナ科	○		
362	スイバ	タデ科	○		
363	スイレン	スイレン科	○0		
364	スカシタゴボウ	アブラナ科	○		
365	スギナ(ツクシ)	トクサ科	○		
366	ススキ	イネ科	○		
367	スズメウリ	ウリ科	○□		
368	スズメガヤ	イネ科			
369	スズメノエンドウ	マメ科	○		
370	スズメノカタビラ	イネ科	○		
371	スズメノチャヒキ	イネ科	○		
372	スズメノテッポウ	イネ科	○		
373	スズメノヒエ	イネ科	○		
374	スズメノヤリ	イグサ科	○		
375	スズランスイセン	ヒガンバナ科	○		
376	スベリヒユ	スベリヒユ科	○		
377	スマレ	スマレ科	○		
378	セイタカアワダチソウ	キク科	○△		
379	セイバンモロコシ	イネ科	○		
380	セイヨウアブラナ	アブラナ科	○		
381	セイヨウカラシナ	アブラナ科	○		
382	セイヨウジュウニヒトエ(アジュガ)	シソ科	○0		
383	セイヨウタンポポ	キク科	○△		
384	セイヨウノコギリソウ	キク科	○		
385	セイヨウフウチョウソウ	フウチョウソウ	○□		
386	セキショウ	サトイモ科	○		
387	セキショウモ	トチカガミ科	○0		
388	ゼニアオイ	アオイ科	○0		
389	セリ	セリ科	○		
390	セリバヒエンソウ	キンポウゲ科	○0		
391	センダングサ	キク科	○		
392	セントウソウ	セリ科	○		
393	センニンソウ	キンポウゲ科	○		
394	センブリ	リンドウ科	○		
395	センボンヤリ	キク科	○		
396	ゼンマイ	ゼンマイ科	○		
397	ソクズ	スイカヅラ科	○		
398	ソバナ	キキョウ科	○		
399	タイアザミ(トネアザミ)	キク科	○		
400	ダイコンソウ	バラ科	○		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

401	タイシノブ	ミズワラビ科			
402	タイヌビエ	イネ科	○		
403	タウコギ	キク科	○		
404	タカアザミ	キク科	○0		
405	タカオヒゴダイ	キク科			
406	タカサゴユリ	ユリ科	○		
407	タカサブロウ	キク科	○		
408	タカトウダイ	トウダイグサ科	○		
409	タガネソウ	カヤツリグサ科	○		
410	タケニグサ	ケシ科	○		
411	タコノアシ	ユキノシタ科	○※		
412	タシロラン	ラン	○0※		
413	タチイヌノフグリ	ゴマノハグサ科	○		
414	タチシオデ	ユリ科	○		
415	タチチチヨグサ	キク科	○		
416	タチツボスミレ	スミレ科	○		
417	タチテンモンドウ	ユリ科	○□		
418	タチフウロ	フウロソウ科	○		
419	タツナミソウ(オカタツナミソウ)	シソ科	○0		
420	タニギキョウ	キキョウ科	○		
421	タニソバ	タデ科			
422	タヌキマメ	マメ科			
423	タネツケバナ	アブラナ科	○		
424	タマガヤツリ	カヤツリグサ科	○		
425	タマサンゴ(フユサンゴ)	ナス科	○□		
426	ダリア	キク科	○□		
427	ダンドボロギク	キク科	○		
428	チガヤ	イネ科	○		
429	チカラシバ	イネ科	○		
430	チゴユリ	ユリ科	○		
431	チダケサシ	ユキノシタ科	○		
432	チチヨグサ	キク科	○		
433	チチヨグサモドキ	キク科	○		
434	チヂミザサ	イネ科	○		
435	チドメグサ	セリ科	○		
436	チャガヤツリ	カヤツリグサ科	○		
437	チョウジタデ	アカバナ科	○		
438	チョウセンアサガオ	ナス科	○△		
439	ツタバウンラン	ゴマノハグサ科	○0		
440	ツボクサ	セリ科	○		
441	ツボスミレ	スミレ科	○		
442	ツメクサ	ナデシコ科	○		
443	ツユクサ	ツユクサ科	○		
444	ツリガネニンジン	キキョウ科	○		
445	ツリフネソウ	ツリフネソウ科	○		
446	ツルニガクサ	シソ科	○0		
447	ツルニンジン	キキョウ科	○0		
448	ツルボ	ユリ科	○		
449	ツルマメ	マメ科	○		
450	ツルマンネングサ	ベンケイソウ科	○		

451	ツルヨシ	イネ科	○		
452	ツルリンドウ	リンドウ科	○		
453	ツレサギソウ	ラン科	○0		
454	テギリスゲ	カヤツリグサ科	○		
455	テリミノイヌホオズキ	ナス科	○		
456	トウゴクシダ	オシダ科			
457	トウダイグサ	トウダイグサ科	○0		
458	トウバナ	シソ科	○		
459	トキホコリ	イラクサ科	○0		
460	トキワイカリソウ	メギ科	○0		
461	トキワツユクサ	ツユクサ科	○0		
462	トキワハゼ	ゴマノハグサ科	○		
463	トキンソウ	キク科	○		
464	ドクダミ	ドクダミ科	○		
465	トゲチシャ	キク科	○0		
466	ドジョウツナギ	イネ科	○		
467	トゲシバ	イネ科	○		
468	トボシガラ	イネ科	○		
469	トマトダマシ	ナス科			
470	トラノオシダ	チャセンシダ科	○		
471	ナガエミクリ	ミクリ科	○※		
472	ナガバギンギシ	タデ科	○		
473	ナガハグサ	イネ科	○		
474	ナガバジャノヒゲ	ユリ科	○		
475	ナガバノスミレサイシン	スミレ科	○		
476	ナガバヤブソテツ	オシダ科	○		
477	ナガミヒナゲシ	ケシ科	○		
478	ナギナタガヤ	イネ科			
479	ナギナタコウジュ	シソ科	○		
480	ナギリスゲ	カヤツリグサ科	○		
481	ナズナ	アブラナ科	○		
482	ナツズイセン	ヒガンバナ科	○		
483	ナツトウダイ	トウダイグサ科	○		
484	ナルコビエ	イネ科	○		
485	ナルコユリ	ユリ科	○		
486	ナンテンハギ	マメ科	○		
487	ナンバンギセル	ハマウツボ科	○		
488	ニオイスマレ	スミレ科	○□		
489	ニオイタチツボスミレ	スミレ科			
490	ニガクサ	シソ科	○		
491	ニガナ	キク科	○		
492	ニクイロシュクシャ	ショウガ科	○0		
493	ニシキソウ	トウダイグサ科	○		
494	ニシキハギ	マメ科			
495	ニシノオオタネツケバナ	アブラナ科			
496	ニラ	ユリ科	○		
497	ニリンソウ	キンボウゲ科	○		
498	ニワゼキショウ	アヤメ科	○		
499	ニワホコリ	イネ科	○		
500	ヌカキビ	イネ科	○		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

501	ヌカボ	イネ科	○		
502	ヌカボタデ	タデ科			
503	ヌスビトハギ	マメ科	○		
504	ヌマツリガヤ	カヤツリグサ科	○0		
505	ヌマトラノオ	サクラソウ科	○		
506	ヌメリグサ	イネ科			
507	ネコノメソウ	ユキノシタ科	○		
508	ネコハギ	マメ科	○		
509	ネジバナ	ラン科	○		
510	ネズミガヤ	イネ科			
511	ネズミノオ	イネ科	○		
512	ネズミムギ	イネ科	○△		
513	ネバリタデ	タデ科			
514	ノアザミ	キク科	○		
515	ノアズキ	マメ科	○		
516	ノガリヤス	イネ科	○		
517	ノカンゾウ	ユリ科	○		
518	ノキシノブ	ウラボシ科	○		
519	ノゲイトウ	ヒユ科	○		
520	ノゲシ	キク科	○		
521	ノコギリソウ	キク科	○0		
522	ノコンギク	キク科	○		
523	ノササゲ	マメ科	○		
524	ノジスミレ	スミレ科	○0		
525	ノシラン	ユリ科	○		
526	ノダイオウ	タデ科			
527	ノダケ	セリ科	○		
528	ノダケモドキ	セリ科	○0		
529	ノチドメ	セリ科	○		
530	ノハカタカラクサ	ツユクサ科	○△		
531	ノハラアザミ	キク科	○		
532	ノビル	ユリ科	○		
533	ノブキ	キク科	○		
534	ノブドウ	ブドウ科	○		
535	ノボロギク	キク科	○		
536	ノミノツツリ	ナデシコ科	○		
537	ノミノフスマ	ナデシコ科	○		
538	ノアソブ	キキョウ科	○		
539	ノバイカイカリソウ	メギ科	○		
540	ノバイカモ	キンポウゲ科	○		
541	ノハイヌメリ	イネ科			
542	ノハイメドハギ	マメ科	○		
543	ノハエドクソウ	ハエドクソウ科	○		
544	ノハキダメギク	キク科	○		
545	ノハコベ	ナデシコ科	○		
546	ノハコベハウズキ	ナス科	○0		
547	ノハシカグサ	アカネ科	○		
548	ノバショウ	バショウ科	○0		
549	ノハゼラン	スベリヒユ科	○0		
550	ノハダカハウズキ	ナス科	○		

551	ノハタザオ	アブラナ科	○		
552	ノハッカ	シソ科	○□		
553	ノハナイバナ	ムラサキ科	○		
554	ノハナガサギク	キク科	○		
555	ノハナカンナ	カンナ科	○□		
556	ノハナタデ	タデ科	○		
557	ノハナトラノオ	シソ科	○0□		
558	ノハナニラ	ユリ科	○0		
559	ノハハコグサ	キク科	○		
560	ノハマスゲ	カヤツリグサ科	○		
561	ノハラモンギク	キク科	○		
562	ノハラシ	ユリ科	○		
563	ノハリガネワラビ	ヒメシダ科	○		
564	ノハリブキ	ウコギ科	○0		
565	ノハルジオン	キク科	○△		
566	ノハルシヤギク	キク科	○		
567	ノハルタデ	タデ科	○		
568	ノハンゲショウ	ドクダミ科	○		
569	ノパンジー	スミレ科	○0□		
570	ノヒエガエリ	イネ科	○		
571	ノビオラ・ソロリア	スミレ科	○0		
572	ノビオラ・バビリオナケア	スミレ科	○0		
573	ノヒカゲイノコズチ	ヒユ科	○		
574	ノヒカゲスゲ	カヤツリグサ科	○		
575	ノヒガンバナ	ヒガンバナ科	○		
576	ノヒキオコシ	シソ科	○		
577	ノヒゴクサ	カヤツリグサ科	○		
578	ノヒゴスミレ	スミレ科	○0		
579	ノヒデリコ	カヤツリグサ科	○		
580	ノヒトリシズカ	センリョウ科	○		
581	ノヒナガヤツリ	カヤツリグサ科			
582	ノヒナキキョウソウ	キキョウ	○0		
583	ノヒナタイノコズチ	ヒユ科	○		
584	ノヒヘグサ	カヤツリグサ科			
585	ノヒマワリ	キク科	○□		
586	ノヒメアシボソ	イネ科	○		
587	ノヒメイヌビエ	イネ科	○		
588	ノヒメウズ	キンポウゲ科	○0		
589	ノヒメオドリコソウ	シソ科	○		
590	ノヒメガマ	ガマ科	○		
591	ノヒメカンスゲ	カヤツリグサ科	○		
592	ノヒメグサ	カヤツリグサ科			
593	ノヒメジオン	キク科	○△		
594	ノヒメジソ	シソ科	○		
595	ノヒメシダ	ヒメシダ科	○		
596	ノヒメジョオン	キク科	○0		
597	ノヒメスイバ	タデ科	○		
598	ノヒメスミレ	スミレ科	○0		
599	ノヒメチドメ	セリ科	○		
600	ノヒメツルソバ	タデ科	○		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

601	ヒメテンツキ	カヤツリグサ科			
602	ヒメナミキ	シソ科			
603	ヒメハギ	ヒメハギ科			
604	ヒメヒオウギズイセン	アヤメ科	○		
605	ヒメヒマワリ	キク科	○○		
606	ヒメミカンソウ	トウダイグサ科	○		
607	ヒメムカシヨモギ	キク科	○△		
608	ヒメヤブラン	ユリ科	○		
609	ヒメヨツバムグラ	アカネ科	○		
610	ヒメリュウキンカ	キンボウゲ科	○○		
611	ヒメワラビ	ヒメシダ科	○		
612	ヒヨドリジョウゴ	ナス科	○		
613	ヒヨドリバナ	キク科	○		
614	ヒルガオ	ヒルガオ科	○		
615	ヒレハリソウ	ムラサキ科	○		
616	ヒロハホウキギク	キク科	○		
617	ヒンジガヤツリ	カヤツリグサ科	○		
618	フィリヤブラン	ユリ科	○○		
619	フウロケマン	ケシ科			
620	フェイジュア	フトモモ科	○○		
621	フキ	キク科	○		
622	フジカンゾウ	マメ科	○		
623	フシグロセンノウ	ナデシコ科	○		
624	フシネカタバミ	マメ科			
625	フジバカマ	キク科	○		
626	ブタクサ	キク科	○△		
627	ブタナ	キク科	○○△		
628	フタバムグラ	アカネ科	○		
629	フタリシズカ	センリョウ科	○		
630	フデリンドウ	リンドウ科	○		
631	フトイ	カヤツリグサ科	○		
632	フナバラソウ	ガガイモ科	○		
633	フユノハナワラビ	ハナヤスリ科	○		
634	フラサバソウ	ゴマノハグサ科	○○		
635	ヘクソカズラ	アカネ科	○		
636	ベニシダ	オンシダ科	○		
637	ベニバナボロギク	キク科	○		
638	ヘビイチゴ	バラ科	○		
639	ヘビノネコザ	メシダ科	○		
640	ヘラオオバコ	オオバコ科	○△		
641	ヘラバヒメジョオン	キク科	○○		
642	ホウキギク	キク科	○		
643	ホウセンカ	ツリフネソウ科	○□		
644	ホウチャクソウ	ユリ科	○		
645	ボウムギ	イネ科	○		
646	ホオズキ	ナス科	○		
647	ホシアサガオ	ヒルガオ科			
648	ホシダ	ヒメシダ科	○○		
649	ホソアオゲイトウ	ヒユ科	○		
650	ホソイ	イグサ科	○○		

651	ホソバアキノゲシ	キク科	○		
652	ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科	○		
653	ホソムギ	イネ科	○		
654	ホタルブクロ	キキョウ科	○		
655	ボタンヅル	キンボウゲ科	○		
656	ホテイアオイ	ミズアオイ科	○△		
657	ホドイモ	マメ科	○		
658	ホトケノザ	シソ科	○		
659	ホトギス	ユリ科	○		
660	ホラシノブ	ホラシノブ科	○		
661	ボントクタデ	タデ科	○		
662	ホンモンジスゲ	カヤツリグサ科	○		
663	マキエハギ	マメ科	○		
664	マコモ	イネ科			
665	マスクサ	カヤツリグサ科	○		
666	マツカゼソウ	ミカン科	○		
667	マツバウンラン	ゴマノハグサ科	○		
668	マツバスゲ	カヤツリグサ科	○○		
669	マツヨイグサ	アカバナ科	○		
670	ママコノシリヌグイ	タデ科	○		
671	マムシグサ	サトイモ科	○		
672	マメアサガオ	ヒルガオ科	○		
673	マメゲンバイナズナ	アブラナ科	○		
674	マヤラン	ラン科	○○		
675	マルバアサガオ	ヒルガオ科	○		
676	マルバスマレ	スマレ科	○		
677	マルバハッカ	シソ科	○○		
678	マルバルコウソウ	ヒルガオ科	○		
679	マルミギンリョウソウ	イチャクソウ科			
680	ミカエリソウ	シソ科	○○		
681	ミクリ	ミクリ科	○※		
682	ミコシガヤ	カヤツリグサ科	○		
683	ミズガヤツリ	カヤツリグサ科			
684	ミズタマソウ	アカバナ科	○		
685	ミズニラ	ミズニラ科	○※		
686	ミズハコベ	アワゴケ科	○		
687	ミズヒキ	タデ科	○		
688	ミゾイチゴツナギ	イネ科	○		
689	ミゾカクシ	キキョウ科	○		
690	ミゾシダ	ヒメシダ科	○		
691	ミゾソバ	タデ科	○		
692	ミゾハギ	ミゾハギ科	○		
693	ミゾホオズキ	ゴマノハグサ科	○		
694	ミチシバ	イネ科	○		
695	ミチヤナギ	タデ科	○		
696	ミツバ	セリ科	○		
697	ミツバツチグリ	バラ科	○		
698	ミドリハコベ	ナデシコ科	○		
699	ミドリヒメワラビ	ヒメシダ科	○		
700	ミミナグサ	ナデシコ科	○		

701	ミヤコグサ	マメ科			
702	ミヨウガ	ショウガ科	○		
703	ムシクサ	ゴマノハグサ科	○0		
704	ムシトリナデシコ	ナデシコ科	○□		
705	ムラサキエノコログサ	イネ科	○		
706	ムラサキカタバミ	カタバミ科	○△		
707	ムラサキケマン	ケシ科	○		
708	ムラサキサギゴケ	ゴマノハグサ科	○		
709	ムラサキツユクサ	ツユクサ科	○		
710	メアゼテンツキ	カヤツリグサ科			
711	メキシコマンネングサ	ペンケイソウ科	○		
712	メドハギ	マメ科	○		
713	メナモミ	キク科	○		
714	メノマンネングサ	ペンケイソウ科	○		
715	メハジキ	シソ科	○		
716	メヒシバ	イネ科	○		
717	メヤブマオ	イラクサ科	○		
718	メリケンガヤツリ	カキツリグサ科	○0△		
719	ヤエムグラ	アカネ科	○		
720	ヤクシソウ	キク科	○		
721	ヤセウツボ	ハマウツボ科	○0		
722	ヤナギタデ	タデ科	○		
723	ヤナギハナガサ	クマツヅラ科	○0		
724	ヤナギモ	ヒルムシロ科			
725	ヤノネグサ	タデ科	○		
726	ヤハズソウ	マメ科	○		
727	ヤブガラシ	ブドウ科	○		
728	ヤブカンノウ	ユリ科	○		
729	ヤブジラミ	セリ科	○		
730	ヤブスゲ	カヤツリグサ科	○		
731	ヤブソテツ	オシダ科	○		
732	ヤブタバコ	キク科	○		
733	ヤブタバコ	キク科	○		
734	ヤブツルアズキ	マメ科	○		
735	ヤブニンジン	セリ科	○		
736	ヤブハギ	マメ科	○		
737	ヤブヘビイチゴ	バラ科	○		
738	ヤブマオ	イラクサ科	○		
739	ヤブマメ	マメ科	○		
740	ヤブミヨウガ	ツユクサ科	○		
741	ヤブラン	ユリ科	○		
742	ヤブレガサ	キク科	○		
743	ヤマイ	カヤツリグサ科			
744	ヤマイタチシダ	オシダ科	○		
745	ヤマイヌワラビ	メシダ科	○		
746	ヤマジノホトギス	ユリ科	○		
747	ヤマシロギク	キク科	○		
748	ヤマズメノヒエ	イグサ科	○		
749	ヤマゼリ	セリ科			
750	ヤマトキソウ	ラン科			

751	ヤマトラノオ	ゴマノハグサ科			
752	ヤマヌカボ	イネ科	○		
753	ヤマノイモ	ヤマノイモ科	○		
754	ヤマハタザオ	アブラナ科	○		
755	ヤマハッカ	シソ科	○		
756	ヤマブキソウ	ケシ科	○		
757	ヤマホタルブクロ	キキョウ科	○		
758	ヤマホトギス	ユリ科	○		
759	ヤマヤブソテツ	オシダ科	○		
760	ヤマユリ	ユリ科	○		
761	ヤワラシダ	ヒメシダ科	○		
762	ヤワラスゲ	カヤツリグサ科			
763	ユウガギク	キク科	○		
764	ユウゲショウ	アカバナ科	○0		
765	ユウスゲ	ユリ科	○0		
766	ユキノシタ	ユキノシタ科	○		
767	ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ科	○		
768	ヨシ	イネ科	○		
769	ヨツバムグラ	アカネ科	○		
770	ヨメナ	キク科	○		
771	ヨモギ	キク科	○		
772	リウメンシダ	オシダ科	○		
773	リンドウ	リンドウ科	○		
774	ルドベキア・トリコロール	キク科	○0		
775	レモンエゴマ	シソ科	○0		
776	レンゲソウ	マメ科	○		
777	レンリソウ	マメ科			
778	ワダソウ	ナデシコ科	○		
779	ワニグチソウ	ユリ科	○		
780	ワラビ	コバノイシカグマ科	○		
781	ワルナスビ	ナス科	○△		
782	ワレモコウ	バラ科	○		
木 本					
783	アオキ	ミズキ科	○		
784	アオツツラフジ	ツツラフジ科	○1		
785	アオハダ	モチノキ科	○1		
786	アカシデ	カバノキ科	○		
787	アカマツ	マツ科	○		
788	アカメガシワ	トウダイグサ科	○		
789	アカメヤナギ	ヤナギ科	○1		
790	アケビ	アケビ科	○		
791	アズマネザサ	イネ科	○		
792	アブラチヤン	クスノキ科	○1		
793	アベリア	スイカズラ科	○1		
794	イチョウ	イチョウ科	○		
795	イヌエンジュ	マメ科	○		
796	イヌコリヤナギ	ヤナギ科	○1		
797	イヌザクラ	バラ科	○		
798	イヌシデ	カバノキ科	○		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

799	イヌツゲ	モチノキ科	○		
800	イヌマキ	マキ科	○1		
801	イボタノキ	モクセイ科	○		
802	イロハモミジ	カエデ科	○		
803	ウグイスカグラ	スイカズラ科	○		
804	ウケザキオオヤマレンゲ	モクレン科	○1		
805	ウジョウザクラ	バラ科	○1		
806	ウツギ	ユキノシタ科	○		
807	ウバメガシ	ブナ科	○1		
808	ウメ	バラ科	○		
809	ウメモドキ	モチノキ科	○		
810	ウラジロガシ	ブナ科	○1		
811	ウワミズザクラ	バラ科	○		
812	エゴノキ	エゴノキ科	○		
813	エノキ	ニレ科	○		
814	エンジュ	マメ科	○		
815	オオシマザクラ	バラ科	○1		
816	オオムラサキ	ツツジ科	○1		
817	オガタマノキ	モクレン科	○1		
818	オカメザサ	イネ科	○		
819	オニグルミ	クルミ科	○		
820	オノエヤナギ	ヤナギ科	○		
821	カイドウ	バラ科	○		
822	カキノキ	カキノキ科	○		
823	ガクアジサイ	ユキノシタ科	○		
824	カクレミノ	ウコギ科	○		
825	カジイチゴ	バラ科	○		
826	カツラ	カツラ科	○1		
827	ガマズミ	スイカツラ科	○		
828	カマツカ	バラ科	○		
829	カラタチ	ミカン科	○		
830	カラタチバナ	ヤブコウジ化	○1		
831	カリン	バラ科	○1		
832	カワツザクラ	バラ科	○1		
833	カワヤナギ	ヤナギ科	○1		
834	カワヤナギ	ヤナギ科	○1		
835	キツタ	ウコギ科	○1		
836	キヌヤナギ	ヤナギ科	○1		
837	キブシ	キブシ科	○		
838	ギョイコウ	バラ科	○1		
839	キョウチクトウ	キョウチクトウ科	○1		
840	キリ	ゴマノハグサ科	○1		
841	キンモクセイ	モクセイ科	○1		
842	ギンモクセイ	モクセイ科	○1		
843	ギンヨウアカシア	マメ科	○1		
844	クコ	ナス科	○		
845	クサイチゴ	バラ科	○		
846	クサギ	クマツヅラ科	○		
847	クサボケ	バラ科	○		
848	クスノキ	クスノキ科	○		

849	クチナシ	アカネ科	○		
850	クスギ	ブナ科	○		
851	クマイチゴ	バラ科			
852	クマシデ	カバノキ科	○1		
853	クルメツツジ	ツツジ科	○1		
854	クロガネモチ	モチノキ科	○		
855	クロマツ	マツ科	○		
856	ゲッケイジュ	クスノキ科	○		
857	ケヤキ	ニレ科	○		
858	ケヤマハンノキ	カバノキ科	○1		
859	コウヤボウキ	キク科	○		
860	コウヤマキ	コウヤマキ科	○1		
861	コクサギ	ミカン科	○		
862	コグマザサ	イネ科	○1		
863	コゴメウツギ	バラ科	○		
864	ゴシュユ	ミカン科	○		
865	コナラ	ブナ科	○		
866	コブシ	モクレン科	○		
867	コマユミ	ニシキギ科	○		
868	コムラサキ	クマツヅラ科	○		
869	ゴウアケビ	アケビ科	○		
870	コリヤナギ	ヤナギ科	○1		
871	ゴンズイ	ミツバウツギ科	○		
872	サカキ	ツバキ科	○		
873	サラサウツギ	ユキノシタ科	○1		
874	サルスベリ	ミソハギ科	○1		
875	サルトリイバラ	ユリ科	○		
876	サワフタギ	ハイノキ科	○		
877	サワラ	ヒノキ科	○		
878	サンゴジュ	スイカズラ科	○		
879	サンシュユ	ミズキ科	○1		
880	サンショウ	ミカン科	○		
881	シダレザクラ	バラ科	○		
882	シデコブシ	モクレン科	○1		
883	シモクレン	モクレン科	○1		
884	シャリンバイ	バラ科	○		
885	シュロ	ヤシ科	○		
886	シラカン	ブナ科	○		
887	シロダモ	クスノキ科	○		
888	シロヤナギ	ヤナギ科	○1		
889	シロヤマブキ	バラ科	○1		
890	スイカズラ	スイカツラ科	○		
891	スイフヨウ	アオイ科	○1		
892	スギ	スギ科	○		
893	スズカケノキ	スズカケノキ科	○1		
894	スダジイ	ブナ科	○1		
895	センダン	センダン	○1		
896	センリョウ	センリョウ科	○1		
897	ソシンロウバイ	ロウバイ科	○1		
898	ソメイヨシノ	バラ科	○1		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

899	ソヨゴ	モチノキ科	○1		
900	タイサンボク	モクレン科	○1		
901	タチヤナギ	ヤナギ科	○1		
902	タマアジサイ	アジサイ科	○1		
903	タラノキ	ウコギ科	○		
904	チャノキ	ツバキ科	○		
905	チャンチン	センダン	○1		
906	ツリバナ	ニシキギ科	○		
907	ツルウメモドキ	ニシキギ科	○		
908	ツルマサキ	マサキ科	○1		
909	テイカカズラ	キョウチクトウ科	○		
910	テリハノイバラ	バラ科	○1		
911	トウカエデ	カエデ科	○1		
912	ドウダンツツジ	ツツジ科	○1		
913	トウネズミモチ	モクセイ科	○△		
914	トサミズキ	マンサク科	○1		
915	ナツグミ	グミ科	○1		
916	ナツツタ	ブドウ科	○		
917	ナツツバキ	ツバキ科	○1		
918	ナワシロイチゴ	バラ科	○		
919	ナワシログミ	バラ科	○		
920	ナンキンハゼ	トウダイグサ科	○1		
921	ナンテン	メギ科	○		
922	ニガイチゴ	バラ科	○		
923	ニガキ	ニガキ科	○1		
924	ニシキギ	ニシキギ科	○1		
925	ニワトコ	スイカズラ科	○		
926	ヌルデ	ウルシ科	○1		
927	ネコヤナギ	ヤナギ科	○1		
928	ネザサ	イネ科	○		
929	ネジキ	ツツジ科	○1		
930	ネズミモチ	モクセイ科	○		
931	ネムノキ	マメ科	○1		
932	ノイバラ(ノバラ)	バラ科	○		
933	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ科	○1		
934	ハクウンボク	エゴノキ科	○1		
935	ハクモクレン	モクレン科	○1		
936	ハコネウツギ	スイカズラ科	○1		
937	ハゼノキ	ウルシ科	○		
938	ハナカイドウ	バラ科	○1		
939	ハナズオウ	マメ科	○		
940	ハナツクバネウツギ	スイカズラ科	○1		
941	ハナミズキ	ミズキ科	○1		
942	ハリエンジュ(ニセアカシア)	マメ科	○1△		
943	ハリグワ	クワ科	○1		
944	ハンカチノキ	オオギリ科	○1		
945	ハンノキ	カバノキ科	○1		
946	ヒイラギ	モクセイ科	○		
947	ヒイラギモクセイ	モクセイ科	○		
948	ヒサカキ	ツバキ科	○		

949	ヒトツバハギ	トウダイグサ科	○		
950	ビナンカズラ	マツブサ科	○		
951	ヒノキ	ヒノキ科	○		
952	ヒメシャラ	ツバキ科	○1		
953	ヒュウガミズキ	マンサク科	○1		
954	ビヨウヤナギ	オトギリソウ科	○1		
955	ヒラドツツジ	ツツジ科	○1		
956	ビワ	バラ科	○		
957	フサザクラ	フサザクラ科	○		
958	フジ	マメ科	○		
959	ブナ	ブナ科	○1		
960	フユツタ	ウコギ科	○		
961	フリソデヤナギ	ヤナギ科	○1		
962	ベニカナメモチ	バラ科	○1		
963	ベニバナトキワマンサク	マンサク科	○1		
964	ベニバナトチノキ	トチノキ科	○1		
965	ホオノキ	モクレン科	○		
966	ボケ	バラ科	○1		
967	ボタンクサギ	クマツヅラ科	○1		
968	ボブラ	ヤナギ科	○1		
969	マグワ	クワ科	○1		
970	マサキ	ニシキギ科	○		
971	マダケ	イネ科	○		
972	マテバシイ	ブナ科	○1		
973	マメザクラ	バラ科	○1		
974	マユミ	ニシキギ科	○		
975	マルバアオダモ	モクセイ科	○1		
976	マルバアキグミ	グミ科	○1		
977	マルバハギ	マメ科	○		
978	マンサク	マンサク科	○1		
979	マンリョウ	ヤブコウジ科	○		
980	ミズキ	ミズキ科	○		
981	ミツバアケビ	アケビ科	○		
982	ミモザ	マメ科	○1△		
983	ミヤギノハギ	マメ科	○		
984	ムクゲ	アオイ科	○		
985	ムクノキ	ニレ科	○		
986	ムクロジ	ムクロジ科	○1		
987	ムベ	アケビ科	○		
988	ムラサキシキブ	クマツヅラ科	○		
989	メギ	メギ科	○		
990	メタセコイア	スギ科	○1		
991	メダラ	ウコギ科	○1		
992	モウソウチク	イネ科	○		
993	モチノキ	モチノキ科	○		
994	モッコク	ツバキ科	○		
995	モミジイチゴ	バラ科	○		
996	モミジバズカケノキ	スズカケノキ科	○1		
997	モミジバフウ	マンサク科	○1		
998	モモ	バラ科	○1		

市内植物種チェック済表 東久留米市市民環境会議 水とみどり部会  
 ○チェック済、※絶滅のおそれのある種、□園芸種、△要注意外来種、×特定外来種、0(草本)1(木本)追加種

999	ヤダケ	イネ科	○		
1000	ヤツデ	ウコギ科	○		
1001	ヤノネボンテンカ	アオイ科	○1		
1002	ヤブコウジ	ヤブコウジ科	○		
1003	ヤブサンザシ	ユキノシタ科	○		
1004	ヤブツバキ	ツバキ科	○		
1005	ヤブデマリ	スイカズラ科	○		
1006	ヤブニッケイ	クスノキ科	○1		
1007	ヤマウコギ	ウコギ科	○		
1008	ヤマグワ	クワ科	○		
1009	ヤマコウバシ	クスノキ科	○1		
1010	ヤマザクラ	バラ科	○		
1011	ヤマツツジ	ツツジ科	○1		
1012	ヤマトアオダモ	モクセイ科	○1		
1013	ヤマハギ	マメ科	○		
1014	ヤマブキ	バラ科	○		
1015	ヤマブドウ	ブドウ科	○1		
1016	ヤマボウシ	ミズキ科	○1		
1017	ヤマモモ	ヤマモモ科	○1		
1018	ユズ	ミカン科	○		
1019	ユズリハ	ユズリハ科	○		
1020	ユリノキ	モクレン科	○1		
1021	リキュウバイ	バラ科	○1		
1022	リョウブ	リョウブ科	○1		
1023	ロウバイ	ロウバイ科	○1		



# 生きもの調査報告書

- 1 鳥類調査記録
- 2 チョウ類調査記録
- 3 魚類等調査記録

※ 本調査は、文献あるいは市民団体、行政による調査により、今までに市内で確認された鳥、チョウ、魚等のリストです。

※ 結果に差異があるのは、それぞれの調査に、時期や対象地域や目的などが違うためです。

※ 最近では見られない種も含んでいます。

魚類等調査記録

分類	種名	A:	B:	C:	D:							
魚類	Corydoras aeneus	○										
	アブラハヤ	○	○	○								
	アユ		○									
	アメリカナマズ			○								
	イトモロコ		○									
	イワナ			○								
	ウキゴリ		○									
	ウグイ	○	○									
	オイカワ	○	○	○								
	カダヤシ	○										
	カワムツ	○	○	○								
	ギバチ			○								
	金魚	○	○	○								
	キンブナ	○										
	ギンブナ	○	○	○								
	ゲンゴロウブナ	○										
	コイ	○	○									
	シマドジョウ		○	○								
	ジュズカケハゼ		○	○								
	スミウキゴリ			○								
	タイリクバラタナゴ	○										
	タカハヤ		○	○								
	タモロコ		○	○								
	トウヨシノボリ		○									
	ドジョウ	○	○	○								
	ナマズ			○								
	ニジマス	○		○								
	ヒメダカ	○	○	○								
	フナ属の一種	○										
	ブラウントラウト			○								
ブラティ			○									
ホトケドジョウ	○	○	○									
マルタウグイ			○									
メダカ	○	○	○									
モツゴ	○	○	○									
ヤマメ	○	○	○									
ヤリタナゴ			○									
種数		20	21	25	0	0	0	0	0	0	0	

エビ・貝類	1	アメリカザリガニ	○	○	○							
		カワニナ			○							
		モクズガニ		○	○							
		モノアラガイ			○							
		エビ		○	○							
		種数	1	3	5	0	0	0	0	0	0	0

A:落合川整備工事に伴う生物調査(東京都北多摩北部建設事務所 1989~1999)

B:川塾における魚調査データ(2005.12~2009.11)

C:東久留米水辺の生き物研究会 魚類調査(~2009秋)

昆虫等調査記録(途中)

分類	種名	A:	B:	C:	D:
	アオスジアゲハ	○	○	○	
	ナミアゲハ	○	○	○	
	クロアゲハ	○	○	○	
	キアゲハ	○	○	○	
	ナガサキアゲハ	○		○	
	モンシロチョウ	○	○	○	
	スジグロシロチョウ	○		○	
	キタキチョウ	○			
	モンキチョウ	○	○	○	
	ウラギンシジミ	○	○	○	
	ベニシジミ	○	○	○	
	ヤマトシジミ	○	○	○	
	ツバメシジミ	○	○	○	
	ウラナミシジミ	○		○	
	ヒメアカタテハ	○	○	○	
	キタテハ	○	○	○	
	ルリタテハ	○		○	
	ツマグロヒョウモン	○	○		
	コムスジ	○	○	○	
	ゴマダラチョウ	○	○	○	
	アカボシゴマダラ	○	○	○	
	コムラサキ	○	○	○	
	ヒメジャノメ	○	○	○	
	ヒカゲチョウ	○		○	
	サトキマダラヒカゲ	○	○	○	
	ダイミョウセセリ	○		○	
	チャバネセセリ	○		○	
	イチモンジセセリ	○		○	
	コエビガラスズメ	○			
	ヒメシロモンドクガ	○			
	カラスアゲハ		○	○	
	モンキアゲハ		○	○	
	オナガアゲハ		○	○	
	ジャコウアゲハ		○		
	スジグロチョウ		○		
	エゾスジグロチョウ		○		
	ツマキチョウ		○	○	
	キチョウ		○	○	
	ツマグロキチョウ		○	○	
	アカタテハ		○	○	
	ヒオドシ		○		
	テングチョウ		○	○	
	イチモンジ		○		
	アサマイチモンジ		○	○	
	ミドリヒョウモン		○		
	ナミヒカゲ		○		
	ジャノメチョウ		○	○	
	アカシジミ		○	○	
	ウラナミアカシジミ		○		
	ミズイロオナガシジミ			○	
	オオミドリシジミ			○	
	トラフシジミ			○	
	ゴイシシジミ			○	
	ルリシジミ			○	
	ムラサキシジミ			○	
	イチモンジチョウ			○	
	ヒオドシチョウ			○	
	ツマグロキヒョウモン			○	
	ヒメウラナミジャノメ			○	
	コチャバネセセリ			○	
	オオチャバネセセリ			○	
	キマダラセセリ			○	
	ギンイチモンジセセリ			○	
	種数	30	38	51	0

A: 東久留米水辺の生き物研究会 昆虫調査(~2009秋)

B: 桜井氏標本記録

C: LEPTALINA54・55(~2009秋)

}

セッカ	○	○			
センダイムシクイ	○	○	○		
ダイサギ		○		○	
タシギ				○	
タヒバリ		○	○	○	
チゴモズ	○	○	○	○	
チュウサギ		○			
チヨウゲンボウ			○	○	
ツグミ	○	○	○	○	
ツツドリ	○	○	○		
ツバメ	○	○	○	○	
ツミ	○		○	○	
ドバト	○		○	○	
トビ	○	○	○		
トラツグミ	○	○	○	○	
ノゴマ		○	○		
ノスリ		○	○		
ハイタカ		○	○		
ハクセキレイ	○	○	○	○	
ハシビロガモ			○	○	
ハシブトガラス	○	○	○	○	
ハシボソガラス	○	○	○	○	
ハチクマ	○	○			
ハチジョウツグミ	○				
バン			○	○	
ヒガラ	○	○	○	○	
ヒクイナ		○	○		
ヒドリガモ			○	○	
ヒバリ	○	○	○	○	
ヒヨドリ	○	○	○	○	
ビンズイ	○	○	○	○	
フクロウ				○	
ベニスズメ			○		
ベニヒワ		○			
ホオジロ	○	○	○	○	
ホトギス		○	○		
マガモ				○	
マヒワ		○			
ミンサザイ		○	○		
ミヤマホオジロ			○		
ムクドリ	○	○	○	○	
メジロ	○	○	○	○	
メボソムシクイ		○	○		
モズ	○	○	○	○	
ヤツガシラ			○		
ヤブサメ		○			
ヤマガラ	○	○	○	○	
ヤマシギ		○			
ユリカモメ	○	○	○	○	
ヨタカ	○	○	○	○	
ルリビタキ	○	○	○	○	
ワカケホンセイインコ	○		○	○	
種数	60	87	102	67	0
備考			アヒル 類、バ リケン 類	アヒ ル、バ リケン	

A:自由学園年報 第6号(学校法人自由学園 2002)・・・1963～1998自由学園内7ヶ所における定点観測種

B:「東久留米の野鳥」昭和52(1977)年12月、東久留米市教育委員会、吉良幸世

C:「東京都自治体別鳥類目録2000」日本野鳥の会東京支部研究部

D:(市内グループ資料より、1990～1999年)

鳥類調査記録(途中)

種名	A	B	C	D
アオゲラ	○		○	○
アオサギ		○		
アオジ	○	○	○	○
アオバズク	○	○	○	○
アオバト		○	○	
アカゲラ			○	○
アカショウビン		○	○	
アカハラ	○	○	○	○
アカモズ		○	○	
アトリ		○		
アマツバメ	○	○	○	
イカル	○	○	○	○
イワツバメ	○		○	
ウグイス	○	○	○	○
ウソ		○		
エゾビタキ	○	○	○	
エゾムシクイ			○	
エナガ		○		
オオコノハズク		○	○	
オオタカ	○		○	○
オオヨシキリ		○	○	○
オオルリ	○	○		○
オジロビタキ	○		○	
オナガ	○	○	○	○
オナガガモ			○	○
カイツブリ			○	
カケス	○	○	○	
カシラダカ	○	○	○	○
カッコウ	○	○	○	○
カルガモ	○	○	○	○
カワウ			○	○
カワセミ		○	○	○
カワラヒワ	○	○	○	○
キクイタダキ	○	○	○	
キジ			○	
キジバト	○	○	○	○
キセキレイ	○	○	○	○
キビタキ	○	○	○	○
キンクロハジロ			○	○
クイナ				○
クロジ		○	○	
クロツグミ		○		
ゴイサギ	○	○	○	○
コガモ	○	○	○	○
コガラ			○	○
コゲラ	○		○	○
コサギ	○	○	○	○
コサメビタキ		○	○	
コジュケイ	○	○	○	○
コチドリ		○		
コマドリ		○		
コムクドリ		○		
コルリ		○	○	
ササゴイ		○		
サシバ		○		
サメビタキ			○	
サンコウチョウ		○	○	
サンショウクイ	○	○	○	○
シジュウカラ	○	○	○	
シメ	○	○	○	○
ジョウビタキ	○	○	○	○
シロハラ	○	○	○	○
スズメ	○	○	○	○
セグロカモメ				○
セグロセキレイ	○	○	○	○